

小橋工業(株)のホームページ(以下、弊社サイト)においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス(以下、本サービス)をご提供しております。

本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

電子データの取扱いについて

電子データの内容について

■本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。

■カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。

また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更内容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社(小橋工業株式会社)が著作権その他知的財産権を保有します。無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面に基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願いいたします。

免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。

弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

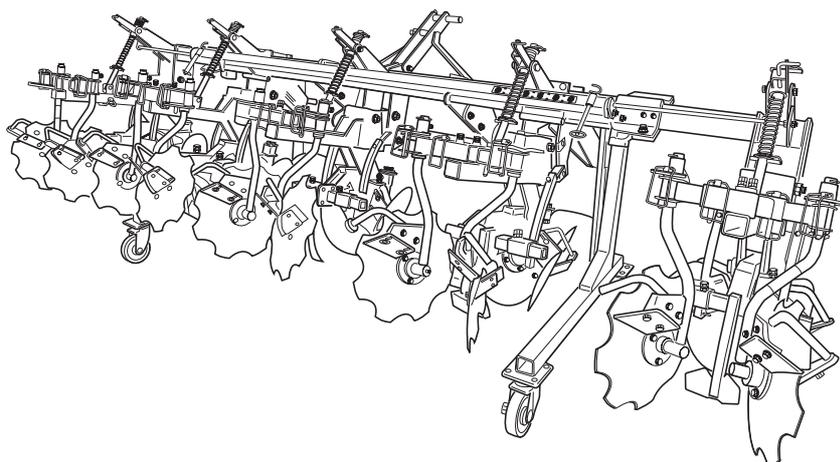
以上

小橋工業株式会社

コバシ中耕ディスク

取扱説明書

DC501



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本
取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、
事故を引き起こす恐れがあります。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

KOBASHI

はじめに

このたびはコバシ中耕ディスクをお買い上げいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は、中耕ディスクの性能を十分に発揮させ、より安全で快適な農作業をしていただくためにも、ご使用前によくお読みいただき、正しい取扱いをしてくださるようお願いいたします。

又、中耕ディスクを他の人に貸出しされる場合には、この取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくようにご指導をお願いいたします。

なお、本製品については、不断の研究成果を新しい技術としてただちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますが、あらかじめご了承ください。

▲ 安全作業のポイント

◎安全な作業をしていただくためには、まず機械の使い方を十分理解し、正しい取扱いをすることが基本となります。

◎この取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱上の注意事項について、次のように表示しています。

必ずお読みいただいて事故のない安全な作業をしてください。

▲ **危険**…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

▲ **警告**…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

▲ **注意**…その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。

取扱上の注意…その警告文に従わなかった場合、機械の損傷を起こす恐れのある操作を示します。

中耕ディスクの使用目的・使用範囲

この中耕ディスクは中耕・除草・培土の管理作業機です。

ダイレクトでの耕うん・重作業には使用できません。

使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。

目次

▲ 安全に作業するために	1
1 はじめに	1
2 作業の前に	1
3 トラクタへの着脱	1
4 防護カバー類の取付け	2
5 装着時の前後バランスの確認	2
6 トラックへの積み・降ろし	2
7 一般走行	3
8 圃場への出入り	3
9 作業をしているとき	3
10 作業中の点検	4
11 トラクタを止めるとき	4
12 その他	4
▲ 安全ラベルの取扱い	5
サービスと保証について	6
各部の名称	7
中耕ディスクの組立（標準3点リンク直装）	8
中耕ディスクの組立（日農工標準オートヒッチ）	10
トラクタへの装着（標準3点リンク直装）	11
1 装着前の準備	11
2 トラクタへの装着	11
3 装着後のトラクタとの調整	12
4 トラクタからの取外し	13
トラクタへの装着（日農工標準オートヒッチ）	14
1 装着前の準備	14
2 トラクタへの装着	15
3 装着後のトラクタとの調整	16
4 トラクタからの取外し	17
作業前の点検	18
1 各部のボルト・ナットのゆるみ	18
移動、圃場への出入り	18
上手な作業の仕方	19
1 圃場の準備	19
2 作業速度	19
3 うね幅調整について	19
4 耕深の調整	22
5 土の飛びの調整	22
6 コンプレッションスプリングの調整	23
7 圃場が硬いとき	24
8 シャーボルトの交換	24
9 チゼル、ザンコウショリトウの交換	25
10 スクレーパの調整、交換	25
11 除草、培土の切替	26
両端ユニットの格納	28
保守・点検	30
保管・格納	32
主要諸元	33
トラクタ別装着表	
（標準3点リンク直装）	34
トラクタ別装着表	
（日農工標準オートヒッチ）	37
点検整備一覧表	40
消耗部品	40
異常診断一覧表	41
用語解説	42

▲安全に作業するために

安全に作業していただくために次のことを守ってください。
もし怠ると…傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります。

1 はじめに

1-1 取扱説明書をよく読み、機械の使い方をよく覚えてからご使用ください。

トラクタの取扱説明書もあわせてよくお読みください。

機械の操作を知らずに使用するとたいへん危険です。

1-2 取扱説明書は、いつでも読めるように、機械と一緒に大切に保管してください。

1-3 機械を他人に貸出しされる場合は、取扱説明書も併せて貸出いただき、正しい取扱いをしていただくように、指導してください。



1-4 適応トラクタ以外への装着の禁止

主要諸元表に適応トラクタ馬力を表示していますので熟読の上、適応馬力内のトラクタに装着してください。特にトラクタ馬力が小さい場合はトラクタとの重量バランスが悪くなり事故の原因となります。



1-5 服装には注意を払いましょう

作業中の服装は、ヘルメット、丈夫な手袋、すべらない靴、キチンとした作業服を着用してください。だぶついたズボンや上着など、回転部分に巻き込まれやすい服装は、たいへん危険です。ボタンもキチンととめましょう。



1-6 次のような状態では、運転しないでください。

- ① 飲酒運転
- ② いねむり運転
- ③ 病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき
- ④ 若年者
- ⑤ 妊娠中の方

機械の操作に十分熟練し、必要な運転免許証を携帯し、心身ともに健康な状態で運転してください。



1-7 共同作業者がいる場合は、動作ごとに合図を徹底しましょう。

1-8 使用目的以外の作業や、機械の改造は事故の発生、又は、機械の故障の原因となりますので、決してしないでください。

2 作業の前に

2-1 機械の点検を

各部のボルト、ナットなどのゆるみや、ピンの脱落がないか確認してください。作業中にボルト、ナット、ピンなどが外れますと、作業機やトラクタの破損の原因及び事故の原因となります。



3 トラクタへの着脱

3-1 作業機の着脱及び調整は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行いましょう。特に夜間の作業機の着脱は、安全で適切な照明を用いる等、安全に留意して行ってください。

▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

- 3-2 トラクタを移動して作業機を装着する場合には、トラクタと作業機の間に入らないように注意してください。



- 3-3 トラクタと作業機の着脱に際しては、いつでも逃げられる安全な態勢で操作し、このときトラクタは必ずブレーキで止めておいてください。
- 3-4 二人以上で着脱を行う場合は、互いに合図しあいましょう。
- 3-5 ジョイントのノックピンが、確実にPTO軸溝に、又作業機入力軸溝にはまったか確認してください。



- 3-6 取付各部のトメピンが全て確実に装着されているか確認してください。



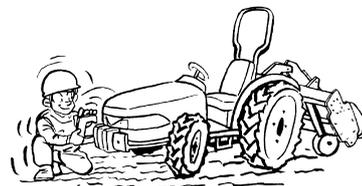
4 防護カバー類の取付け

- 4-1 ジョイントをはじめ、作業機のセフティカバー防護カバー類は必ず取付けてください。

5 装着時の前後バランスの確認

- 5-1 作業機とトラクタとのバランスの確認
作業機を装着すると機体の長さや幅が大きくなり、重量バランスが変わります。確認の上トラクタの前輪に20%以上のウエイトがかかるように、フロントウエイトを取付けてください。なお、作業機に泥が付着して、重たく

なる場合もありますので注意してください。又、アタッチメント等を取付けて使用される場合もバランスの確認を行い、フロントウエイトを取付けてください。



- 5-2 作業機に他のアタッチメントを取付ける場合は、事前に必ずアタッチメントの取扱説明書を良く読んでください。

6 トラックへの積み・降ろし

- 6-1 積み・降ろしの場所は平坦で安全なところを選びましょう。
- 6-2 すべり止めをした丈夫なアユミ板を確実に固定してください。傾斜角度、平行度を確認してください。
- 6-3 トラックは移動しないようにしっかりと車のサイドブレーキをかけてください。
- 6-4 トラクタの左右のブレーキペダルを連結し、脱輪しないように注意してください。又途中でクラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。低速で積み・降ろしをしてください。
- 6-5 作業機を装着しての積み・降ろしはトラクタの重量バランスが変わります。泥の付着等もあり、十分注意して行ってください。



- 6-6 折りたためる作業機は折りたたみ、エクステンションレベラもたたみ、トラックの荷台よりはみ出さないように注意し、強度が十分あるロープで確実に固定してください。

▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

7 一般走行

7-1 トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。

(道路運送車両の保安基準)

作業機を装着して走行すると、他の車や電柱等に引っかけて事故の原因になります。



7-2 トラクタ・作業機には運転者以外の人を乗せないでください。



7-3 左右のブレーキペダルを連結して走行してください。



7-4 作業機の回転を止めて走行してください。

7-5 作業機の落下防止装置を必ず使用して走行してください。

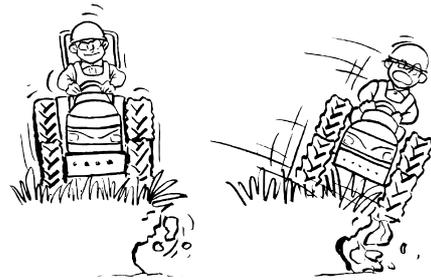
7-6 必要以上の高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回をしないでください。

7-7 旋回するときは、作業機に人や物が接触しないように注意してください。



7-8 作業機は左右がトラクタの機体幅より広い場合、走行時は十分注意してください。移動時は作業機の折りたたむ箇所は折りたたみ走行してください。又スタンドがついている場合も必ず外してください。

7-9 路肩に草が茂っている所を走行するときは特に路肩の強度に気を付けてください。



7-10 坂道では、クラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。

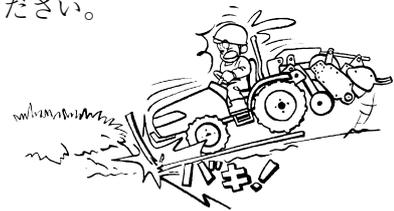
7-11 坂道では、スピードを落とし、低速で走行してください。

7-12 坂道では、エンジンブレーキを使用し、急ブレーキをかけないでください。

8 圃場への出入り

8-1 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げ、うねや段差に対して直角に進んでください。

8-2 圃場から出るときは、傾斜しているうねはバックで上るか、又は丈夫なアユミ板を使用してください。



8-3 うねや段差に対して斜め方向に進むと、横滑りや転倒する危険があります。作業機を低くして重心を下げ、直角に進めてください。

9 作業をしているとき

9-1 いねむり運転、わき見運転をしないようあらかじめ体調を整えてください。

▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

- 9-2 回転部分等、動く所には触れないでください。
 9-3 作業中は、まわりに人を近寄らせないでください。特に子供には十分注意してください。補助作業者がある場合は、動作ごとに合図をかわしてください。



- 9-4 運転者が運転位置をはなれて作業機を調整する場合、又、爪軸等への草やワラのからみ付きを取りのぞく場合等は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれていることを確認した上で行ってください。



- 9-5 作業機の下にもぐったり、足をふみこんだりしないでください。



- 9-6 作業機のカバーは、土礫が飛散ないように調節してください。



- 9-7 ぬかるみにはまっても作業機は絶対に外さないで、他の車に引き上げてもらってください。牽引点は低くしてください。

10 作業中の点検

- 10-1 作業機の点検を行うときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれているこ

とを確認した上で行ってください。又、油圧ロックも必ず行ってください。



- 10-2 点検のために外した安全カバーは、必ず元の通りに取付けてください。



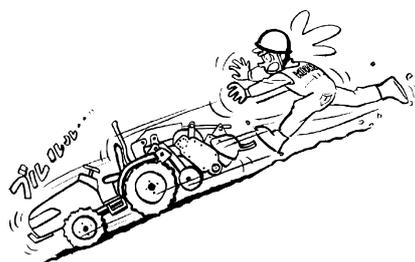
- 10-3 ラジエータ、マフラは高温になりますので、ヤケドに注意してください。

- 10-4 点検整備に必要な工具類は、適切な管理を行い、正しい使用をしてください。

11 トラクタを止めるとき

- 11-1 平らな場所に止めてから、作業機を降ろしてエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。

- 11-2 傾斜地に止める場合は、タイヤに必ず車止めをしてください。



12 その他

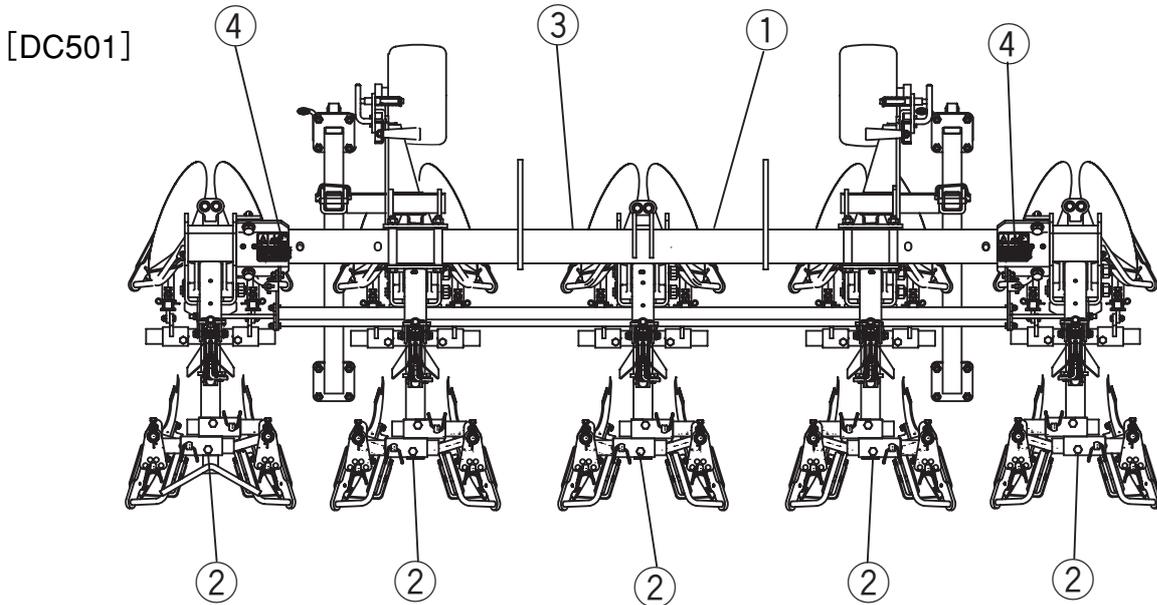
- 12-1 作業機指定のPTO回転速度を守ってください。低速回転用の作業機を高速回転で使用すると作業機が異常作動し危険です。

- 12-2 トラクタのエンジン始動時は、作業機が下がっていることを確認してください。作業機が不意に下がることもあり危険です。

安全ラベルの取扱い

- ① いつも汚れや泥をとり警告がハッキリと見えるようにしてください。
- ② 安全ラベルが損傷したり破損した時は、新しいものと交換してください。
- ③ 安全ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に安全ラベルを貼ってください。

コバシ中耕ディスクには、次の安全ラベルが貼ってあります。よくお読みになって、理解した上で作業してください。



① コードNo. 9994126

	警告
	<ul style="list-style-type: none"> ● 発進時や登坂時にトラクタの前輪が浮き上がらないように十分なフロントウエイトを取付けてください。 ● アタッチメントを装着する際は、バランスに注意しアタッチメントの取扱説明書をよく読んで、適切な処置や調整を行ってください。 <p style="text-align: right;">9994126</p>

② コードNo. 9994127

	注意
	<ul style="list-style-type: none"> ● ディスクは周囲が鋭利になっているので取扱いには十分注意してください。 ● ケガをする恐れがあります。 <p style="text-align: right;">9994127</p>

③ コードNo. 9994128

	注意
	<ul style="list-style-type: none"> ● 使用前に取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。 ● 取扱説明書に記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の損傷等が生じる恐れがあります <p style="text-align: right;">9994128</p>

④ コードNo. 9994321

警告	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本機をトラクタに装着して移動するときは、備え付けのピンを必ずメインフレームとスライドフレームにセットし、固定ボルトを締め付けてください。 ○ スライドフレームが飛び出し、思わぬ事故を招く恐れがあります。 <p style="text-align: right;">9994321</p>

サービスと保証について

1 保証について

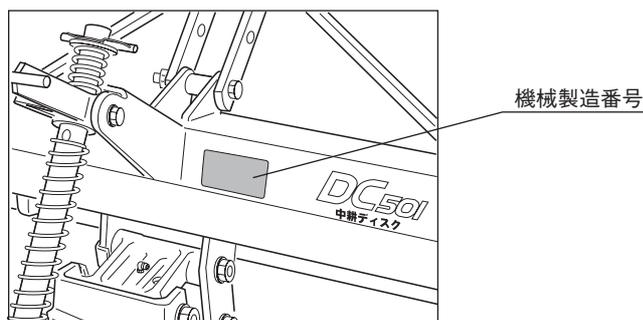
コバシ中耕ディスクには保証書が添付してあります。保証書はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。保証内容は保証書をご覧ください。お読みになった後は大切に保管してください。

2 アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置してもなお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げ頂いた販売店、農協、弊社営業所までご連絡ください。

その際

- 機械の型式名と製造機械番号
- ご使用状況（作業速度はいくらで、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか（約〇〇アール・約〇〇時間使用后）
- 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えてください。



補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後9年といたします。

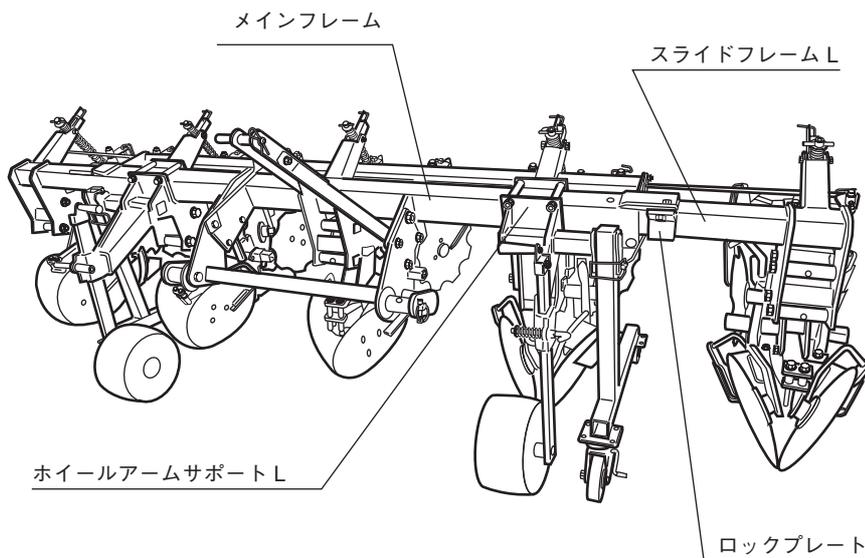
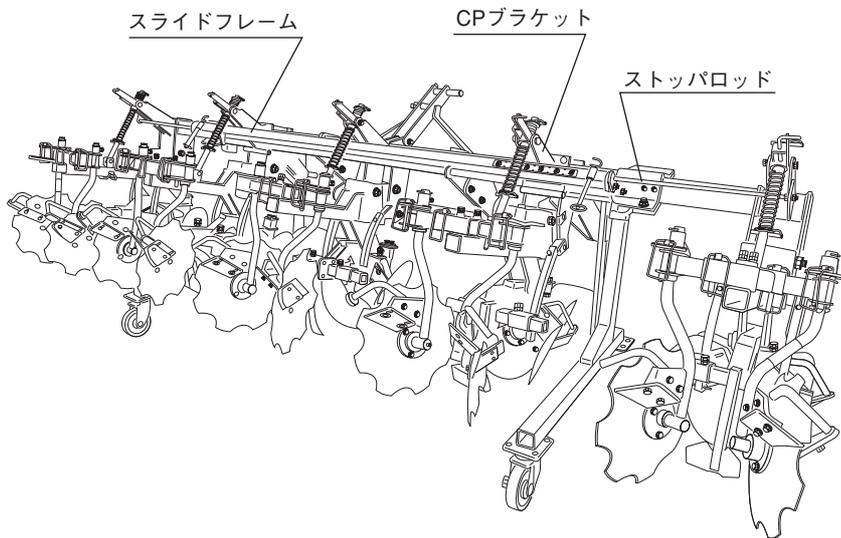
従いまして、その後のご注文に対しては、在庫限りの供給とさせていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

各部の名称

DC501T-0L



中耕ディスクの組立 (標準 3 点リンク直装)

1. 開梱

中耕ディスクは、鉄枠梱包されていますので開梱してください。

▲ 注意

開梱するときは丈夫な手袋を着用して行ってください。

取扱上の注意

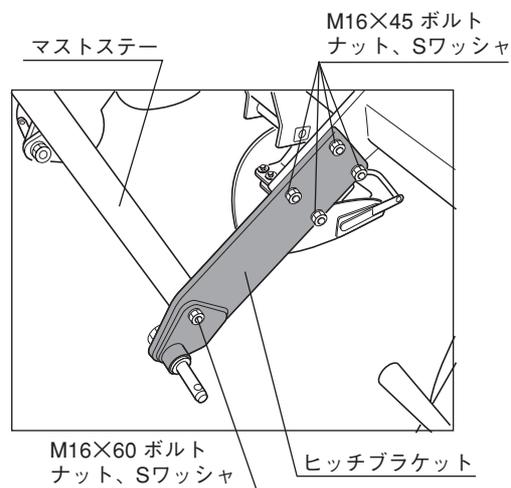
開梱時は、作業機が標準作業状態と異なる位置で設定されているので、P19～P23を参考に標準状態へ設定し直してください。

2. 下記の部品が本体と分かれていますので、組付けてください。

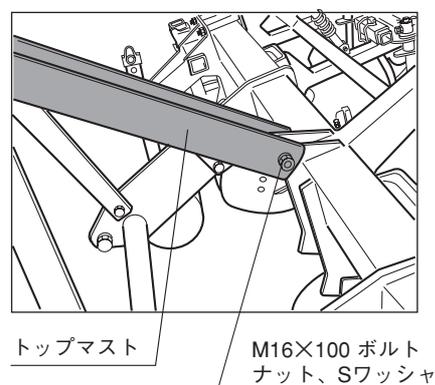
部 品 名	数 量
トップマスト	1
マストステー	2
ヒッチブラケットCOMP	1
トップリンクピン	1
Rピン	1
ヒッチピン	2
ヒッチピン 2 ガタ用カラー	2
ナットSAE 1 インチ	2
SワッシャSAE 1 インチ	2
ボルト M16×100 P2.0	1
ナット M16 P2.0	2
Sワッシャ M16	12
ボルト M16×125 P2.0	1
ボルト M16×60 P1.5	2
ナット M16 P1.5	10
ボルト M16×45 P1.5	8
(ヒッチブラケットシム)	(2)

3. ヒッチの組立

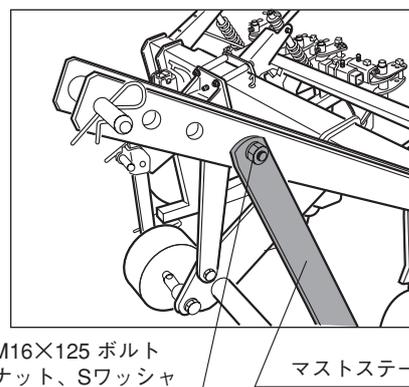
① メインフレームにヒッチブラケットをイラストの位置で取付けます。

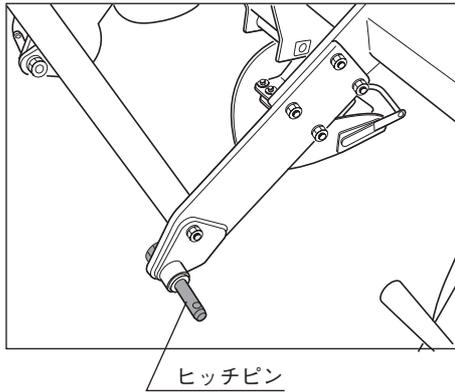


② トップマストをメインフレームに取付けます。



③ ヒッチブラケット、トップマストにマストステー、ヒッチピンを取付けます。

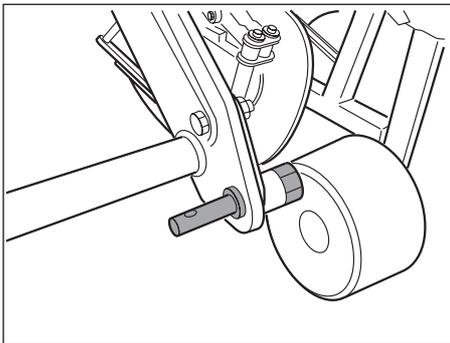




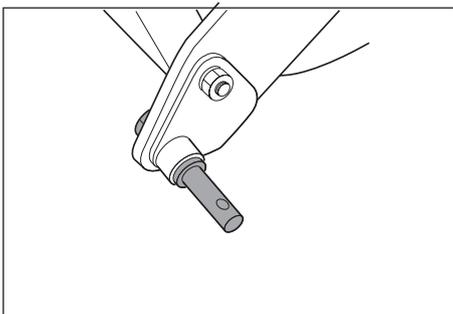
トラクタの3点リンクの規格により、内側セットと外側セットがありますので規格に合わせてセットしてください。

JIS1：内側セット JIS2：外側セット
(トラクタ別装着表P32～34参照)

[1 型]



[2 型]



中耕ディスクの組立

(日農工標準オートヒッチ Lヒッチ：Ⅰ・Ⅱ形)

1. 開梱

中耕ディスクは、鉄枠梱包されていますので開梱してください。

▲ 注意

開梱するときは丈夫な手袋を着用して行ってください。

取扱上の注意

開梱時は、作業機が標準作業状態と異なる位置で設定されているので、P19～P23を参考に標準状態へ設定し直してください。

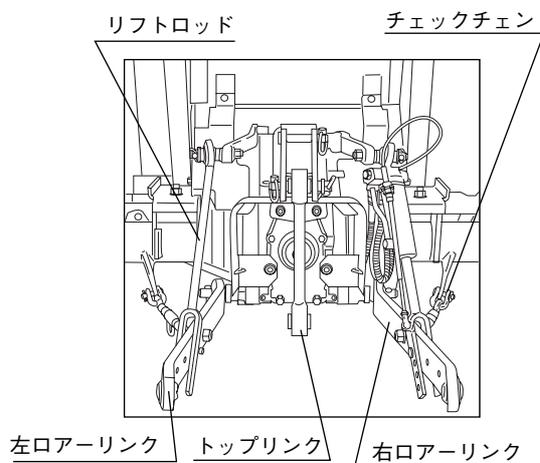
2. 日農工標準オートヒッチ仕様は、部品が全て組んだ状態で梱包されているので、ヒッチの組立は必要ありません。

トラクタへの装着 (標準 3 点リンク直装)

1 装着前の準備

1. トラクタの準備

本機の装着方法は標準 3 点リンク式のヒッチです。もしトラクタに特殊 3 点リンク式のロータリーを装着されている場合は、トップリンクブラケットを外し、トップリンクを標準 3 点リンク用の長いトップリンクと付け替えてください。



取付位置は、本書のトラクタ別装着表 (P34 ~36) を参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を確認、取付けてください。

2 トラクタへの装着

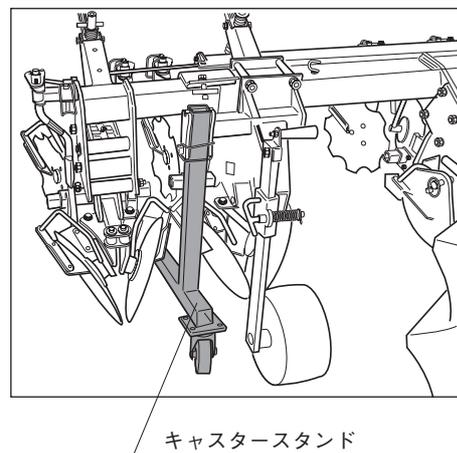
▲ 注意

1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクタと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
4. 二人作業の場合は、互いに合図しあって作業をしてください。
5. キャスタスタンドを着脱する際は、傷害事故を引起す恐れがありますので、トラクタのエンジンを停止し、作業機を持ち上げ、油圧をロックし、落下防止をしてから行ってください。

6. キャスタスタンドで作業機を移動する際は、平坦な広い場所で、周囲に人がいないことを確認し、足元に注意して行ってください。
7. キャスタ及びキャスタスタンドが損傷したまま使用すると作業機が転倒する恐れがあり危険です。✕損傷している場合は直ちに修理、交換を行ってください。
8. キャスタスタンドは、圃場内での使用や圃場内への放置はしないでください。泥の浸入により回転しにくくなる場合があります。又、泥が侵入して回転しにくくなった場合は、良く洗浄してグリスを塗布してください。

1. 作業機を装着姿勢にします

作業機にキャスタスタンドを装着します。



2. 作業機の取付け

- ① トラクタと中耕ディスクの中心が一致するように、トラクタを後退させ、左側ロアーリンクをヒッチピンに取付けます。次に右側のロアーリンクをリフトロッドの長さを調整してヒッチピンに取付けます。

- ② トップリンクを取付けます
- ③ トラクタのポジションコントロールレバーを「上げる」にして作業機を上げ、左右のスタンドを外します。(スタンド装着時)

▲ 注意

トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、PTO軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

▲ 注意

装着が終わりましたら、各部のトメピンやトップリンクピンの抜け止めが確実になされていることを確認してください。

取扱上の注意

1. 最初の装着時には、作業機をゆっくりあげながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
2. トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。
又、作業機が勢いよく上がるため10cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
3. トップリンクやローアリンクの取付位置、及びリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。
4. 左右の水平調節についても注意してください。

3 装着後のトラクタとの調整

1. チェックチェンの調整 (左右の振れ)

作業機を持ち上げた状態で、作業機の中心とトラクタのPTO軸を合わせて、左右の横振れを確認して、横振れが10mm以内になるように、左右均等にチェックチェンを張ってください。

2. トップリンクの調整 (前後の傾き)

トップリンクの長さは、トラクタ別装着表(P34~36)を参照の上、合わせてください。装着表にない場合は、作業時、横から見てユニットフレームが水平になるようにトップリンクを調整してください。

▲ 注意

トップリンクの調整は、作業機を接地させて行ってください。トップリンクが抜けて作業機が落下することがあり、危険です。

3. リフトロッドの調整 (左右の水平)

作業機を持ち上げ、後方より見て、左右が水平になるように、トラクタのレベリングハンドル、又は、油圧スイッチを操作し、調整してください。

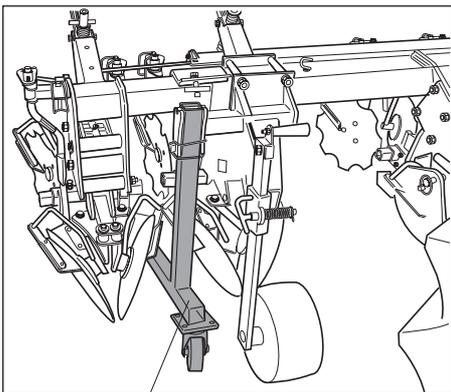
4 トラクタからの取外し

▲ 注意

作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした所で、取外しのためのスペースが十分とれるところで行ってください。

1. スタンドの取付け

作業機を持ち上げて、スタンドを取付けます。



キャストースタンド

2. 取外し

- ① トラクタのポジションコントロールレバーを「下げる」にして、作業機を下げ、接地させます。

▲ 注意

トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、PTO軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

- ② トップリンクを外してください。
作業機が安定するまで、トップリンク長さを調整してください。
トップリンクに力がかからなくなり、ネジが軽くなったところで、トップリンクを外してください。

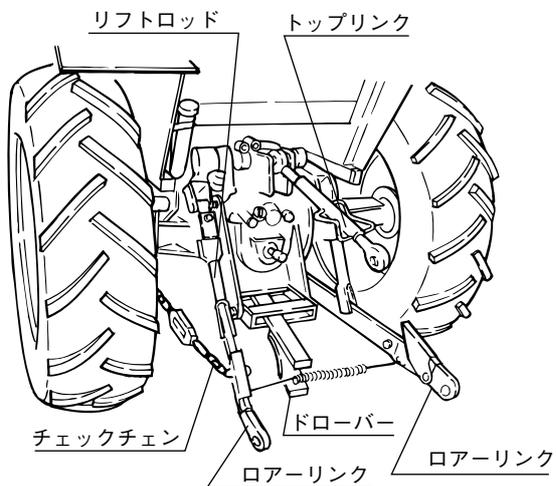
- ③ ローリンクを外してください。
トラクタのチェックチェーンをゆるめてください。
リフトロッドの長さを調整して、ローリンクを外してください。

トラクタへの装着（標準オートヒッチT-3L, T-4L）

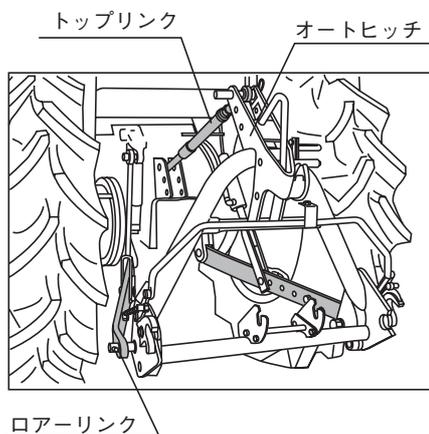
1 装着前の準備

1. トラクタの準備

本機の装着方法は標準3点リンク式のヒッチです。もしトラクタに特殊3点リンク式の金具を装着されている場合は、トップリンクブラケットを外し、トップリンクを標準3点リンク用の長いトップリンクと付け替えてください。又、ドロバーがジョイントに干渉する場合は、ドロバーの位置を変えるか取外してください。



取付位置は本書のトラクタ別装着表（P37～39）を参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を確認、取付けてください。



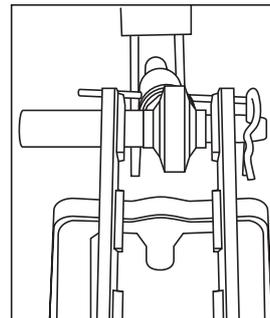
2. オートヒッチの取付け

⚠ 注意

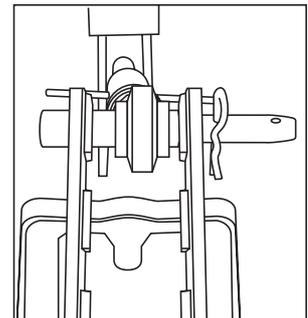
トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、PTO軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

- ① トラクタのポジションコントロールレバーを下げ、ローリンクをいっぱいまで下げます。
オートヒッチをトラクタのトップリンクに取付けます。
付属のトップリンクピンは、カテゴリーI、II形兼用です。

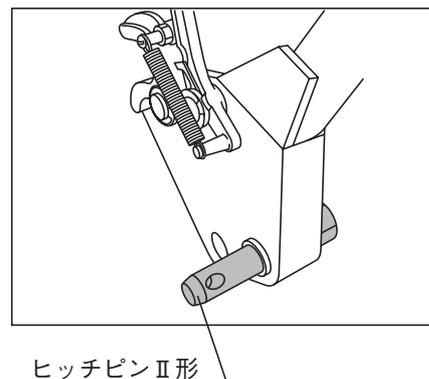
I 形の場合



II 形の場合



- ② 左右のローリンクにオートヒッチのヒッチピンを取付けてください。



- ③ チェックチェーンを張ってオートヒッチをトラクタの中心に合わせてください。
又、ロアーリンクの左右の高さも均等にしてください。

▲ 注意

装着が終わりましたら、各部のトメピンやトップリンクピンの抜け止めが確実になされていることを確認してください。

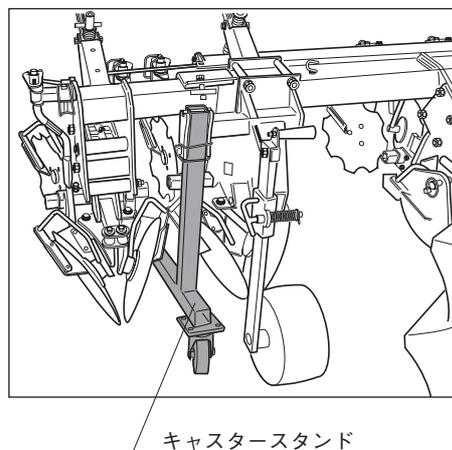
2 トラクタへの装着

▲ 注意

1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクタと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
4. 二人作業の場合は互いに合図しあって作業をしてください。
5. キャスタスタンドを着脱する際は、傷害事故を引起す恐れがありますので、トラクタのエンジンを停止し、作業機を持ち上げ、油圧をロックし、落下防止をしてから行ってください。
6. キャスタスタンドで作業機を移動する際は、平坦な広い場所で、周囲に人がいないことを確認し、足元に注意して行ってください。
7. キャスタ及びキャスタスタンドが損傷したまま使用すると作業機が転倒する恐れがあり危険です。✕損傷している場合は直ちに修理、交換を行ってください。
8. キャスタスタンドは、圃場内での使用や圃場内への放置はしないでください。泥の浸入により回動しにくくなる場合があります。
又、泥が浸入して回動しにくくなった場合は、良く洗浄してグリスを塗布してください。

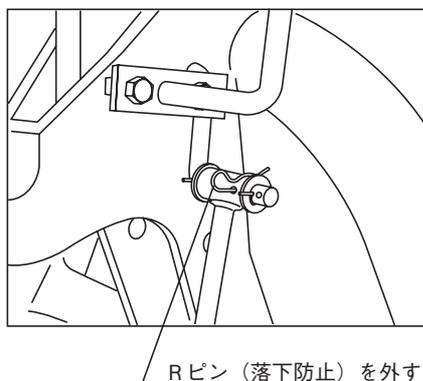
1. 作業機を装着姿勢にします

作業機にキャスタスタンドを装着します。



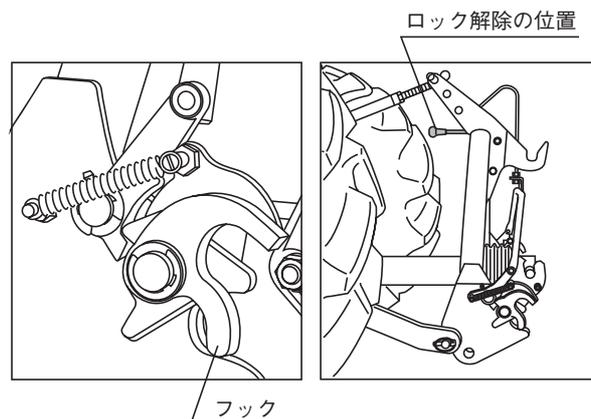
2. 落下防止のRピンを外す

装着前にはオートヒッチに取付けてある落下防止のRピンを必ず外しておきます。
外したRピンは紛失しないように横の穴に差し込んでください。



3. オートヒッチフックのロックの解除

装着前にRピンを抜いてレバーを下げ、ロックを解除してフックを開いておきます。



4. 取付け

- バックしてヒッチを合わせる

トラクタのPTOの変速はニュートラルにしておいてください。

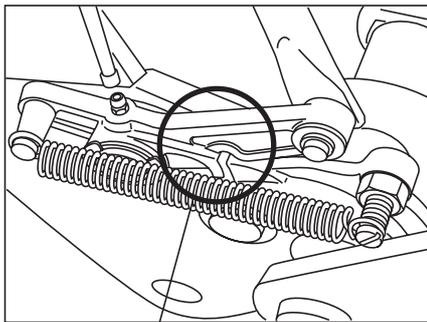
オートヒッチを下げ、トラクタをゆっくり作業機に近づけ、作業機のマスト先端とオートヒッチのトップを合わせます。

この時トラクタと作業機が直角になるようにしてください。

5. フックを合わせてリフトアップ

ポジションコントロールレバーを「上げる」にして、作業機をゆっくりとリフトアップすると、オートヒッチのローアフックとジョイントのクラッチ部は自動的に接続、ロックされます。ジョイントが噛み合わなかったりした場合は、ポジションコントロールレバーを下げて一度前進、再度最初からやり直してください。

- 6. フックが確実にロックされたか確認してください。



フック (ロックの状態)

▲ 注意

作業が終わって作業機を外すまでは、オートヒッチのレバーには絶対に手を触れないでください。ロックが解除し作業機が外れます。

取扱上の注意

1. 最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
2. トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手で干渉の有無を確認してから使用してください。
又、作業機が勢いよく上がるため10cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
3. ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。
4. トップリンクやローアリンクの取付位置、及びリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。
5. 左右の水平調節についても注意してください。

③ 装着後のトラクタとの調整

1. チェックチェンの調整 (左右の振れ)

作業機を持ち上げた状態で、作業機の入力軸とトラクタのPTO軸を合わせて、左右の横振れを確認して、横振れが10mm以内になるように、左右均等にチェックチェンを張ってください。

2. トップリンクの調整 (前後の傾き)

トップリンクはトラクタ別装着表 (P37~39) を参照に調整してください。

▲ 注意

トップリンクの調整は、作業機を接地させて行ってください。トップリンクが抜けて作業機が落下することがあり危険です。

3. リフトロッドの調整（左右の水平）

作業機を持ち上げ、後方より見て左右が水平になるように、トラクタのレベリングハンドル、又は、油圧スイッチを操作し、調整してください。

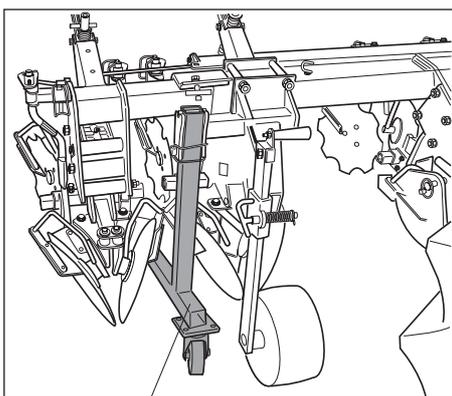
4 トラクタからの取外し

▲ 注意

作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした所で、取外しのためのスペースが十分とれる所で行ってください。

1. 作業機を自立姿勢にします

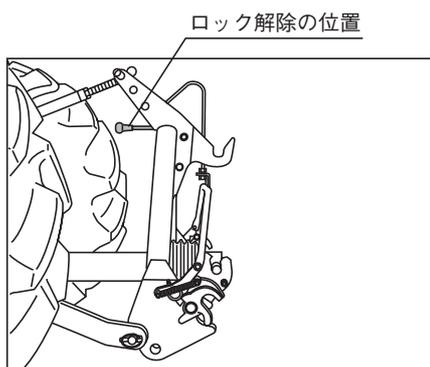
作業機にキャストスタンドを装着します。



キャストスタンド

2. オートヒッチフックのロックの解除

作業機を持ち上げてレバー下げ、ロックを解除します。（この時レバーのRピンは抜いておきます）



3. 作業機を下げる

ポジションコントロールレバーを「下げる」にして、作業機を下げるとローアフック部は外れます。次にポジションコントロールレバーを下げながらトラクタをゆっくり前進させると作業機は外れます。

◆外れない場合は、場所が平坦でないとか、トラクタがまっすぐ前進していないなどの原因がありますので、再度動作をやり直してください。

作業前の点検

作業機の正常な機能を発揮させるため、又、故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。

下記の始業点検は毎日欠かさず行ってください。

▲ 注意

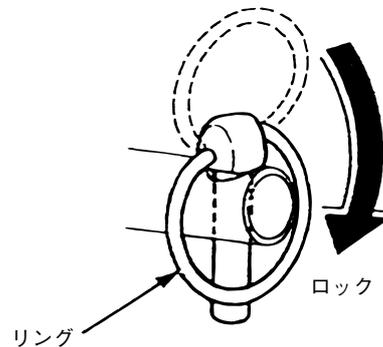
1. 点検は平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. トラクタのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
3. 作業機は地面におろしてから行ってください。作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、油圧をロックし、落下防止をするとともに、台などをディスクの下に置き、作業機が絶対落下しないようにしてから行ってください。

① 各部のボルト・ナットのゆるみ

各部のボルト・ナット類に緩みはないか、増し締めしながら点検してください。

尚、新品の場合は使用1時間後に点検を行ってください。

又、ピン類も全てそろっていることを確認してください。又、ガンマピンのリングが確実にロックされていることを確認してください。



移動、圃場の出入り

▲ 警告

1. 移動時は、作業機を持ち上げ、油圧ロックをし、作業機の回転を止めてください。又、チェックチェーンも確実に張れているか確認してください。
2. トラックへの積み込み、坂の登りに、トラクタの前輪が浮き上がるとハンドルが利かず危険です。フロントウエイトを着けて作業機を下げて登ってください。
3. 前後、左右に気をくばり、安全を確認しながら走行してください。高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。

4. 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げて、うねや段差に対して直角に進んでください。畦畔が高い時は、丈夫で滑り止めのあるアユミ板を使用し、傾斜角が14度以下になるようにしてください。

上手な作業の仕方

1 圃場の準備

播種前のロータリ耕は一定の深さで平らに、細かく碎土しておく、精度のよい培土が行えます。

また、うねを高く上げたいときは、ロータリ耕の耕深を深くすることで、培土の時の土上げがスムーズに行えます。

▲ 警告

1. 運転中は危険ですから、トラクタ及び作業機の周囲には、補助作業員や、他の人を絶対に近づけないようにしてください。
2. 作業機を調整、整備する場合や、草、ワラのからみ付きを取除く場合は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、PTO軸への動力の伝達が切れていることを確認の上で行ってください。
3. 畦畔での作業は、作業機を畦に引っかかないように、ゆっくりと注意して行ってください。
4. 傾斜地での急旋回は転倒の危険があります。ゆっくりと注意して行ってください。

2 作業速度

1回目培土の時など、大豆の株が小さいときは、低速で作業することで株が埋没し難くなります。

取扱上の注意

1. 中耕ディスクの作業速度は主要諸元に記載してある速度の上限を超えないようにしてください。上限を超える速度で作業した場合、作業機が破損する恐れがあります。
2. 土壌条件に応じた作業速度、深さを選んでください。

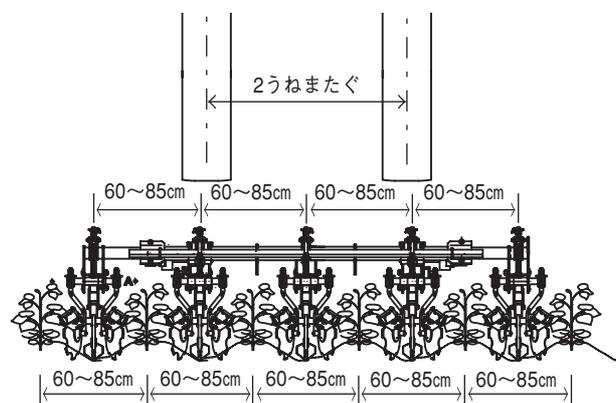
3 うね幅の調整について

▲ 警告

各部の調整、特にディスクの調整を行なう時には、ケガをしないよう手袋、長そでシャツを着用してください。

作物のうね幅に合わせてトラクタの輪距と中耕ディスクのユニットフレーム間隔を決めます。

(例) DC501 うね幅60~85cmのとき



うね幅を変えるときは

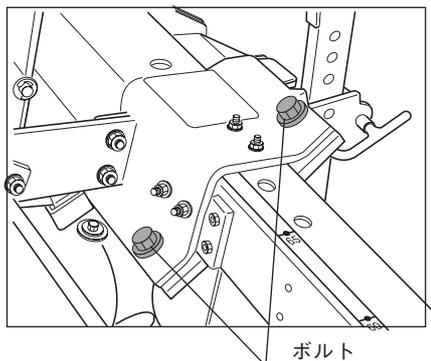
- ① ユニットフレーム間隔
 - ② ヒラガタディスク角度
 - ③ ハナガタディスク角度と間隔
 - ④ チゼル間隔（圃場が硬いとき）
- を調整します。

1. ユニットフレーム間隔の調整

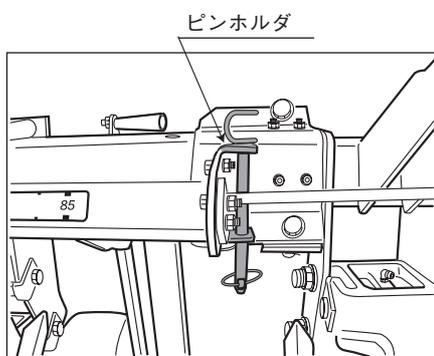
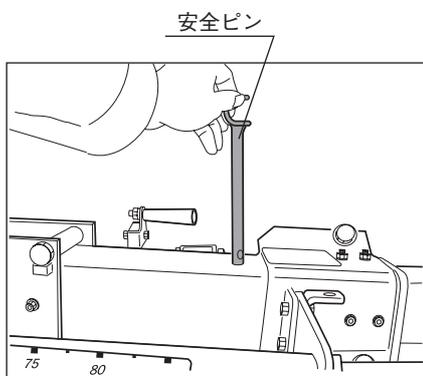
調整を行う前に、取扱説明書のP32~34に記載してあるトラクタマッチング表に基づいて、トップリンク長を合わせてください。長さを合わせたら、作業機が地面から少し浮くくらいの位置までトラクタのポジションレバーを調整してください。この調整を行うことで条間調整が楽に行えるようになります。

(1) 両端ユニットの条間調整方法

- ① まずロックプレートのボルトを緩めます。

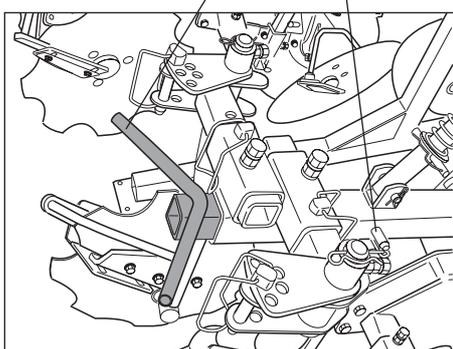


- ② 次に安全ピンを抜きます。抜いた安全ピンはピンホルダに置きます。

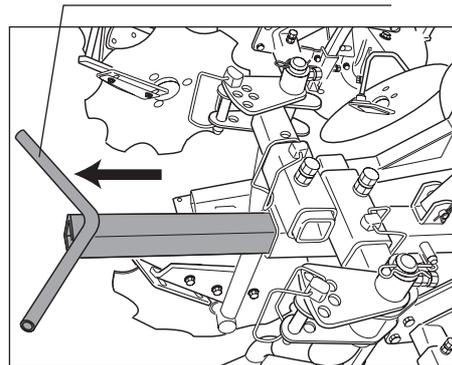


- ③ 次にユニットフレームに収納されているスライドハンドルを引き出し、ピンで固定してください。

スライドハンドル (収納状態)

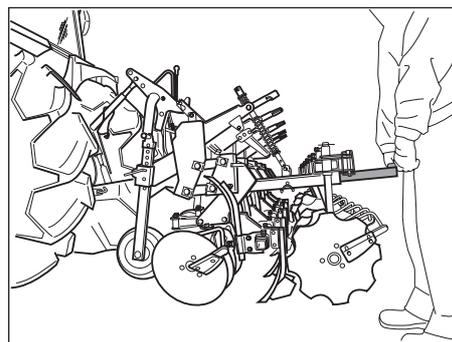


スライドハンドル (引出し状態)



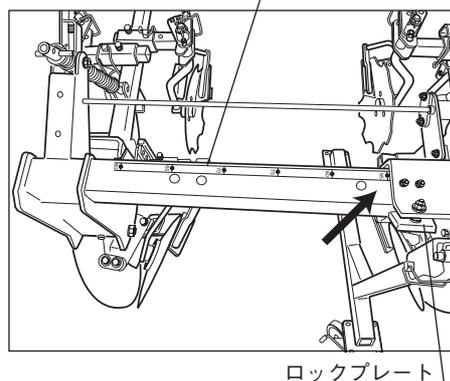
- ④ イラストのようにハンドルでユニットを持ち上げ、左右にスライドさせて条間を調整します。

【注】 スライドハンドルは1個のみの装備です。片側が終了したら、左右反対側に装着し直して使用してください。調整後は収納し、ピンで固定してください。



フレームに張ってあるラベルが条間を示しています。例えば条間75cmに調整したいなら、ラベルの75の線がイラストの矢印位置にくるまでフレームをスライドさせてください。

条間ラベル

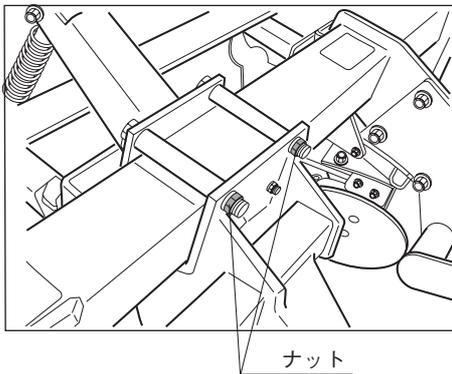


- ⑤ 調整が終わったらロックプレートのボルトを均等に締めてフレームを固定してください。

※ロックプレートのボルトを締めるときは、作業機を地面に下ろした状態で締め上げることで、確実にスライドフレームを固定することができます。

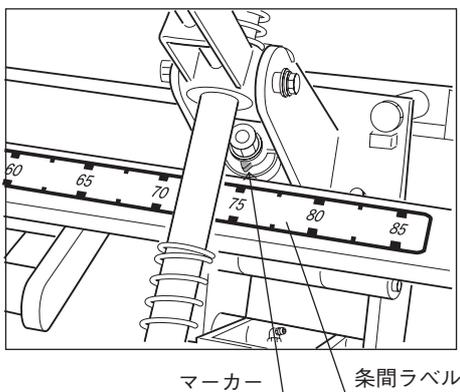
(2) 両端ユニットの条間調整方法

- ① イラストのナットを緩めます。



- ② イラストの数字ラベルが条間を、矢印部分のマーカが作業機の条間位置を示しています。合わせたい条間までマーカが来るよう、ユニットをスライドさせてください。

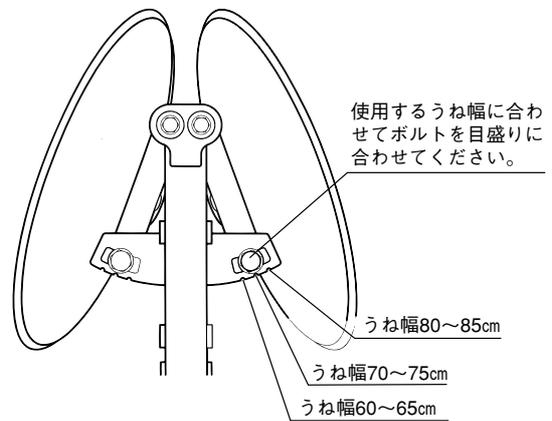
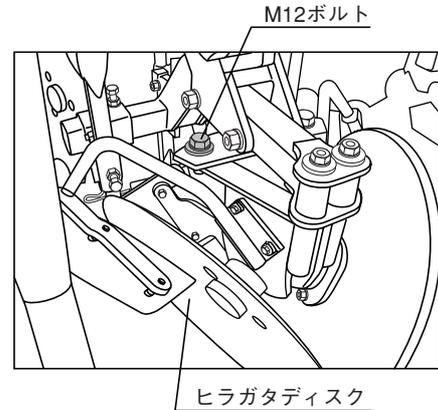
例えば条間75cmに調整する場合は、マーカが75の数字の所に来るまでユニットを動かしてください。



- ③ 調整ができたならナットを締めてユニットを固定してください。

2. ヒラガタディスク角度の調整

ヒラガタディスクを固定しているM12ボルトを緩め、下記イラストを参考にヒラガタディスクの角度を調整してください。

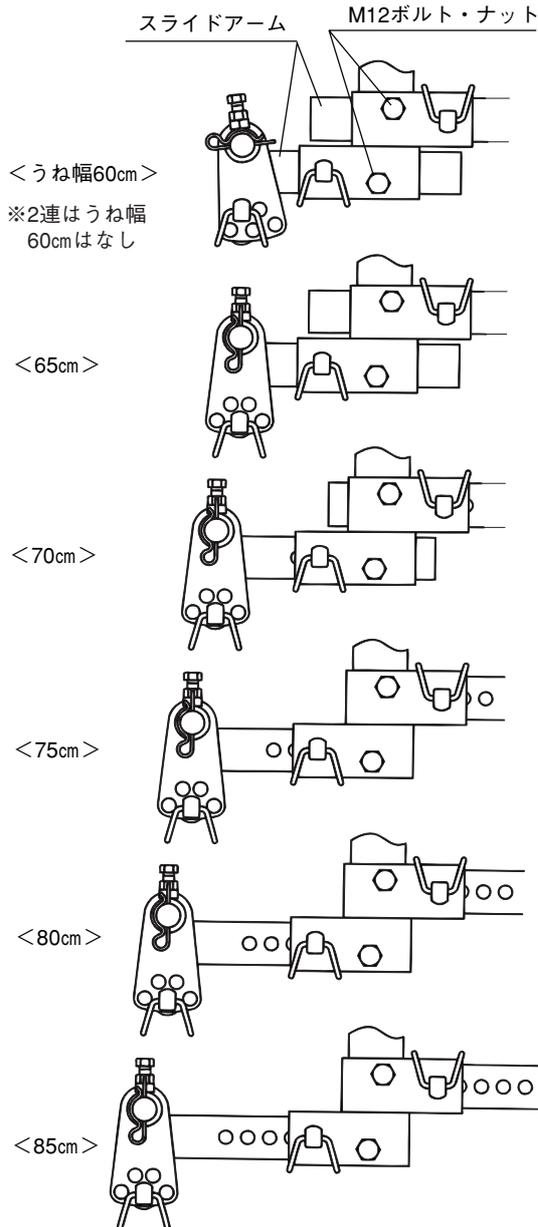


3. ハナガタディスク角度と間隔の調整

スライドアームを固定しているM12ボルト、ナットを緩めた後、ロックピンを抜き、イラストを参考にハナガタディスクの間隔と角度を調整してください。

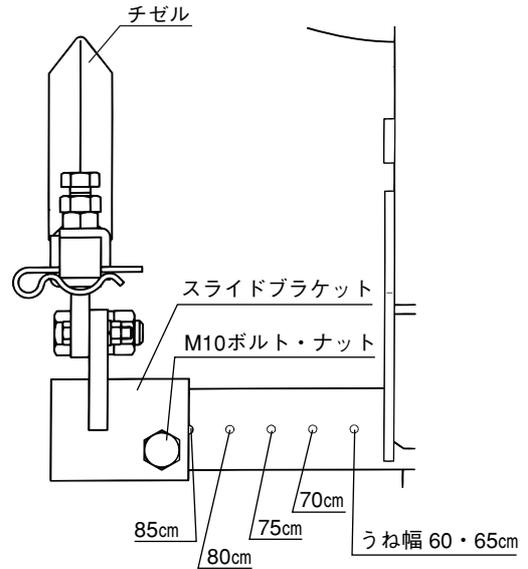
うね幅 60cmのときは、ハナガタディスクの角度を穴1個分小さくしてください。

- ・うね幅とスライドアームの穴位置



4. チゼル間隔の調整

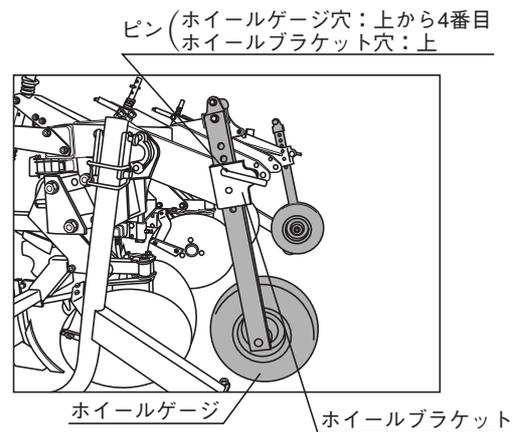
スライドブラケットを固定しているM10ボルト、ナットを緩め、イラストを参考にチゼルの間隔を調整してください。



4 耕深の調整

耕深調節は、左右ホイールゲージの高さを調整して行います。ホイールゲージの標準的な高さはイラストの位置になりますが、培土量が足りない、残耕が残るといったときはホイールゲージを上、培土量が多すぎるときはホイールゲージを下に下げてください。

調整するときは、ピンを抜き、ホイールゲージを任意の高さに調整してください。



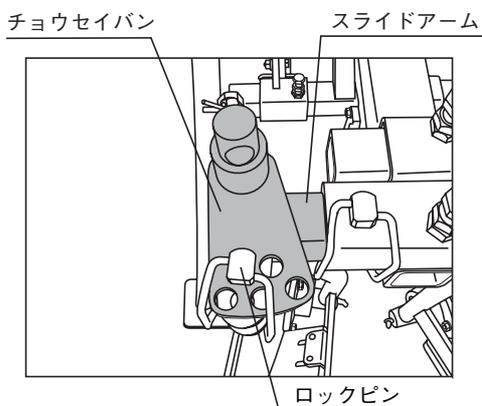
5 土の飛びの調整

ハナガタディスクの角度は、イラストの位置が標準になりますが、土の飛びを調整したいときはハナガタディスクの角度を調整することで大豆に寄せる土の量を変えることができます。

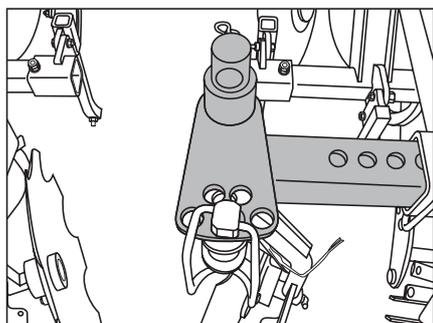
角度を調整するときは、スライドアームから

ロックピンを抜き、チョウセイバンを回してハナガタディスクの角度を調整します。

○うね幅60cmのとき



○うね幅65～85cmのとき

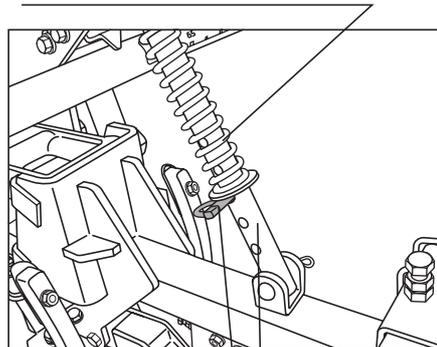


6 コンプレッションスプリングの調節

1. コンプレッションスプリングシタの調節

コンプレッションスプリングは、作業中の衝撃をやわらげる働きをします。通常は下のイラストのように、コンプレッションスプリングシタのピンを下から3番目の穴にさして作業してください。

コンプレッションスプリングシタ



ピン (下から3番目の穴) コンプレッションロッド

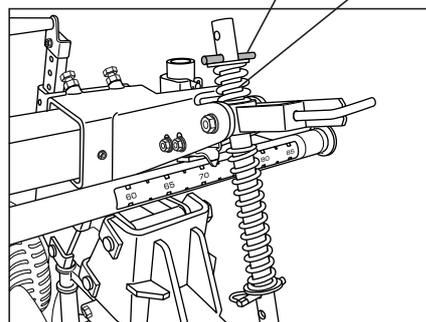
圃場に石が多いときはピンを下から1番目に挿して、スプリングをフリーにした状態で使用してください。

2. コンプレッションスプリングウエの調節

コンプレッションスプリングウエのピンの位置は上から2番目が標準的な位置になります。

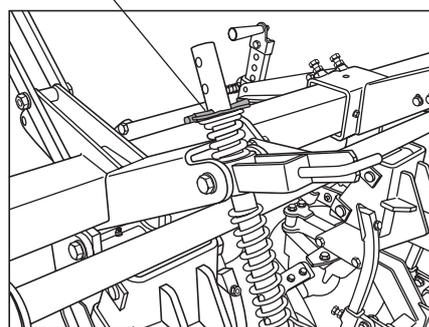
コンプレッションスプリングウエ

ピン (上から2番目の穴)

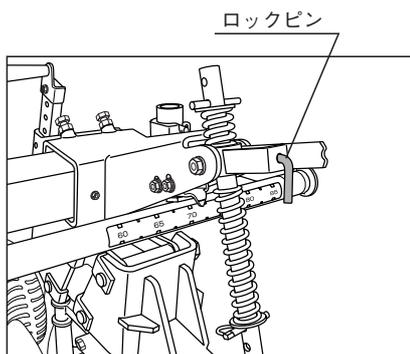


ただし、中央の連は、左右の連（トラクタのタイヤ跡）と異なり、耕深が深くなり培土量が多くなる場合があります。そのときは、中央の連のコンプレッションスプリングウエのピンを上から3番目の穴に挿し、耕深を浅くしてください。

上から3番目の穴



また、圃場の硬さにムラがあり左右の連で耕深が安定しないときは、ロックピンを挿して、ハイコウリンクを固定させてください。



7 圃場が硬いとき

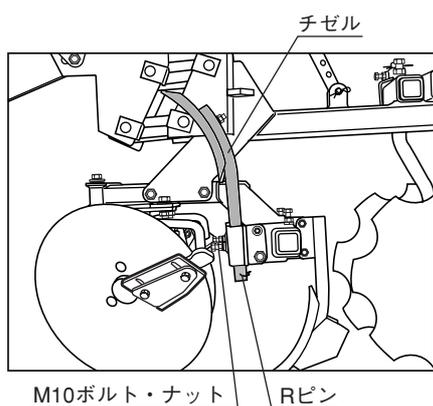
▲ 警告

チゼル付け替えの際はディスク等鋭利な部分でケガをしないよう、長そで、手袋を着用してください。

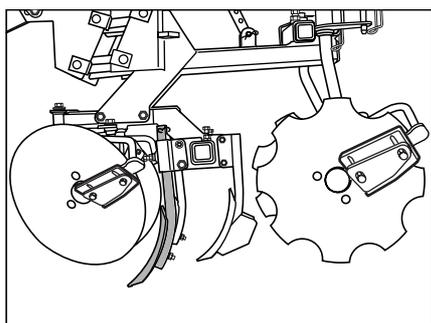
圃場が硬くてディスクが刺さりにくいときはチゼルを使用してください。

出荷時チゼルは上向きに取付けているので、下向きに付け換え、任意の高さで固定してください。最下げ位置が標準深さになります。(脱落防止のため、必ずRピンを挿してください。)

○ チゼルを使わないとき



○ チゼルを使うとき



8 シャーボルトの交換

▲ 警告

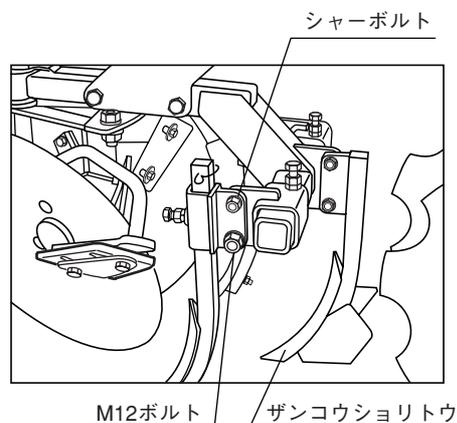
シャーボルト付け替えの際は、ディスク等鋭利な部分でケガをしないよう、長そで、手袋を着用してください。

圃場の寝石などにチゼルが当たったとき、過負荷で機械が破損しないようシャーボルトを設置しています。

シャーボルトが切断したときは、必ず下記規格のボルトを使用してください。シャーボルト交換時にはM12ボルトも増締めしてください。

規 格	コード
シャーボルト M8×30 P1.25 全ネジ 7T	9021053
ナット M8 P1.25 Sワッシャ付	9150358

付属部品としてシャーボルト、ナットが各10ヶ入っています。



▲ 注意

シャーボルトはコバシ純正ボルトを使用してください。

規格のボルトを使用しないと機械の破損の原因となります。

取扱上の注意

チゼルの最大深さはRピンで規制しています。Rピンを抜き、チゼルを規定以上の深さにすると、チゼルの脱落や機械の破損につながりますので、Rピンを抜いて使用しないでください。

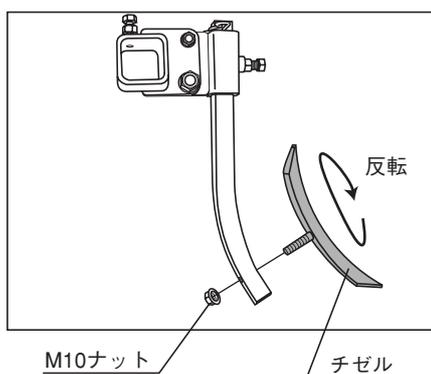
9 チゼル、ザンコウショリトウの交換

▲ 警告

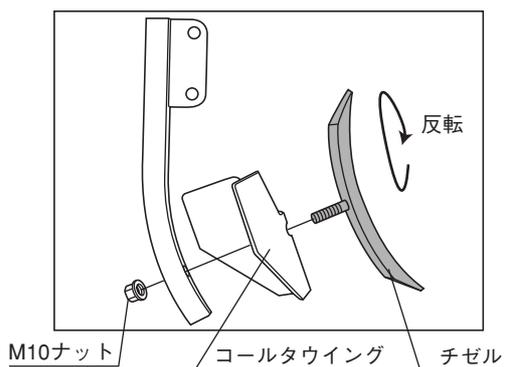
交換の際は、ディスク等鋭利な部分でケガをしないよう、長そで、手袋を着用してください。

チゼル、ザンコウショリトウの刃が摩耗したらM10のナットを外し、上下を反転させて、新しい刃を使用してください。反対の刃も摩耗したら、チゼルを新しいものと交換してください。

○チゼル



○ザンコウショリトウ



10 スクレーパの調整、交換

スクレーパが摩耗して、ディスク表面とスクレーパの間に隙間が空いてきたら、スクレーパを調整してください。

調整は、M8ボルトを緩め、スクレーパをディスクに軽く当たるまでスライドさせて、ボルトを締めてください。

スクレーパの調整をしてもディスクに当たらなくなったら、スクレーパの寿命なので新しいものと交換してください。

▲ 警告

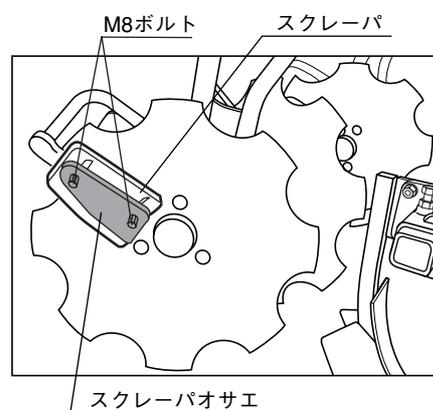
調整、交換の際は、ディスク等鋭利な部分でケガをしないよう、長そで、手袋を着用してください。

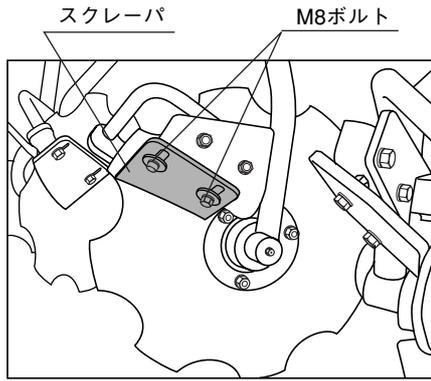
▲ 注意

ボルトを締め過ぎるとスクレーパ変形の原因となります。

▲ 注意

ワラ、草が多く、スクレーパに詰まりディスクが回転しない場合には、スクレーパを取外してください。スクレーパステーの曲がりディスクの偏摩耗になります。





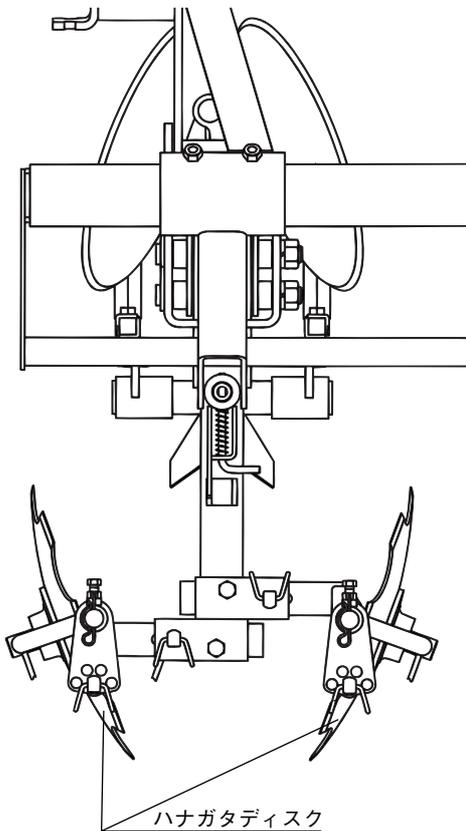
11 除草、培土の切替

▲ 警告

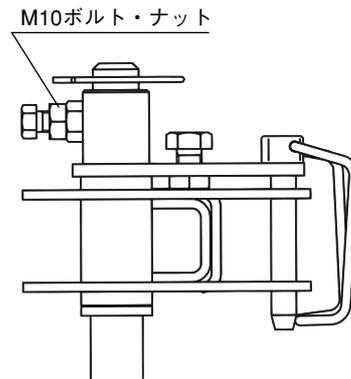
ハナガタディスクを左右入れ替える際は、ディスクを落下させたり、体をおつけてケガをしないよう、作業手順を守って注意して行ってください。

ハナガタディスクを左右入れ替えることにより、除草作業が行えます。

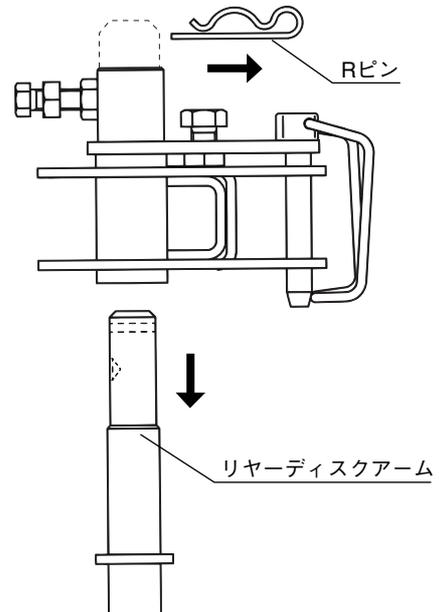
〈除草仕様〉



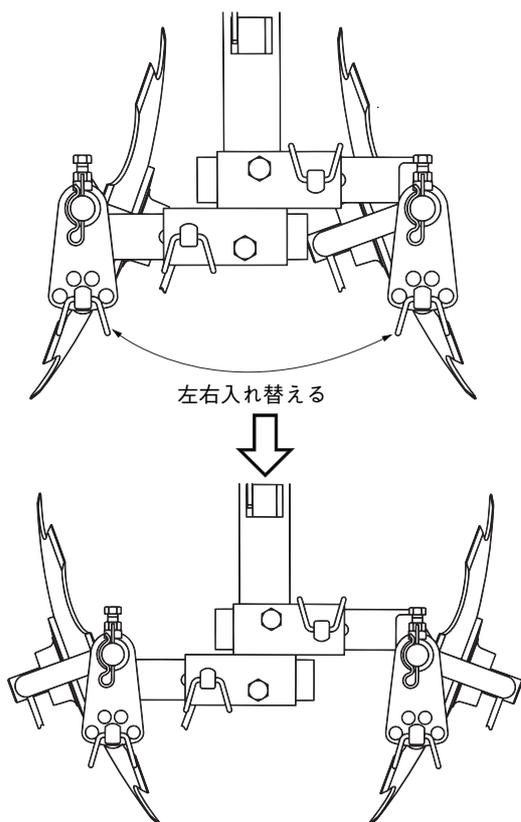
① M10ボルト、ナットを緩めます。



② Rピンを抜いてリヤードディスクアームを抜きます。



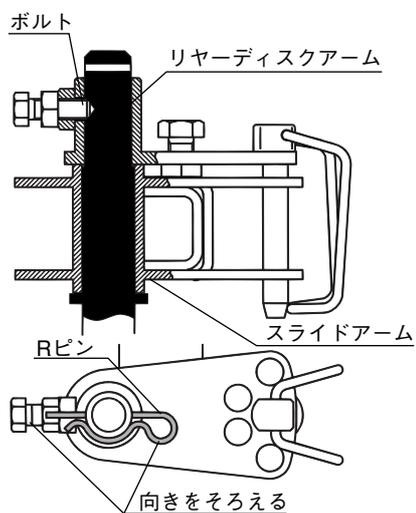
③ 左右のリヤードディスクアームを入れ替え図のようにセットします。



- ④ リヤードISKアームを位置決めするために図のようにボルトでリヤードISKアームの溝を押し込んで固定します。

ボルトと溝の位置をあわせるため、回転方向は、Rピンの穴の向きに合わせ、高さはリヤードISKアームをスライドアームのパイプの下面に突き当たるまで上にあげてからボルトを締めてください。

Rピンを挿してください。



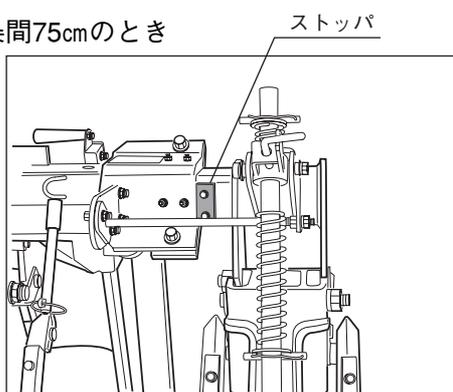
両端ユニットの格納

取扱上の注意

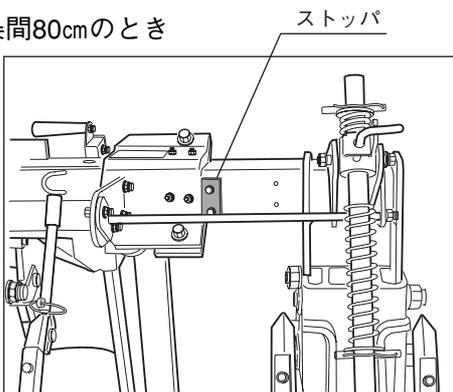
1. 伸縮操作は、トラクタの駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。
2. 平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。
3. 作業機の伸縮は、周囲に人がいないことを確認した上で行ってください。
4. 作業機の伸縮は、スタンドを外した状態で、地面に接地しない範囲でできる限り低い位置で行ってください。(上げ過ぎると作業機のスライド部分の摩擦が大きくなり開閉が重くなります)
5. 作業機は、左右のロックプレートがそれぞれボルトで固定されていることを必ず確認してください。

- ① 条間75cm以上で使用する場合は、収納時の破損防止のため付属のストッパをM6×20ボルトでスライドフレームに取り付けてください。(条間70cm以下の場合、ストッパは不要です)

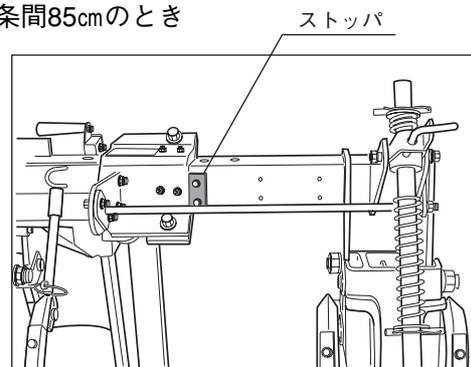
条間75cmのとき



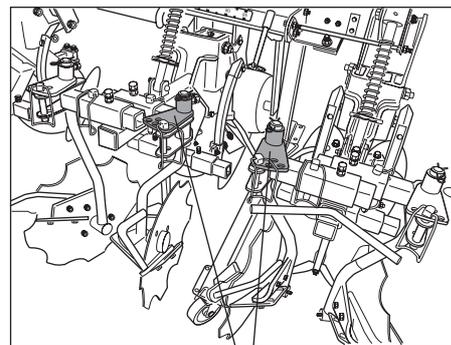
条間80cmのとき



条間85cmのとき

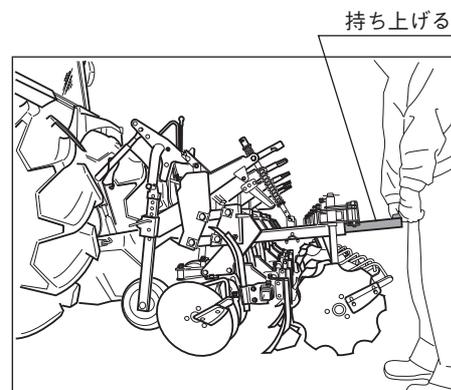


- ② 最初に両端から2番目のリヤディスクの角度を平行にして、フレームを縮めたときにディスク同士が当たらないようにします。



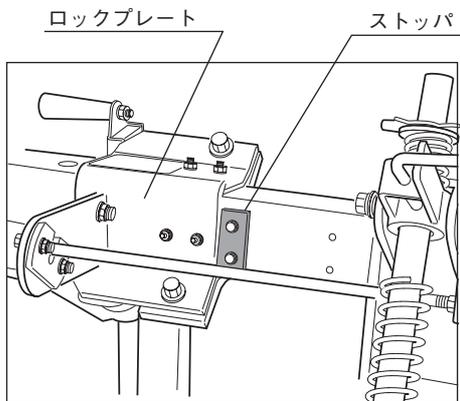
リヤディスクの角度を平行にする

- ③ 次にロックプレートのボルトを緩めてイラストのようにハンドルでユニットを持ち上げ、左右にスライドさせてフレームを縮めます。



持ち上げる

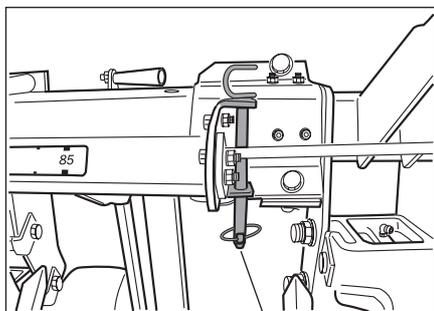
- ・スライドフレームまたはストッパとロックプレートが当たるまで縮めて、ロックプレートのボルトをしっかりと締め付けてください。



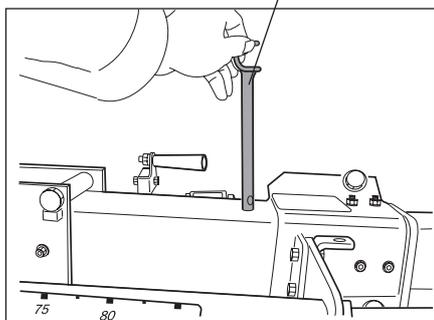
次に安全ピンをメインフレームのイラストの位置に差し込んでガンマピンで留めてください。

⚠ 警告

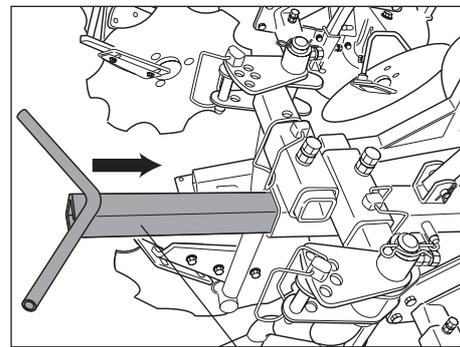
作業機を縮めて圃場を移動する際は、ロックプレートのボルトをしっかりと締め付けて必ず安全ピンをさしてください。



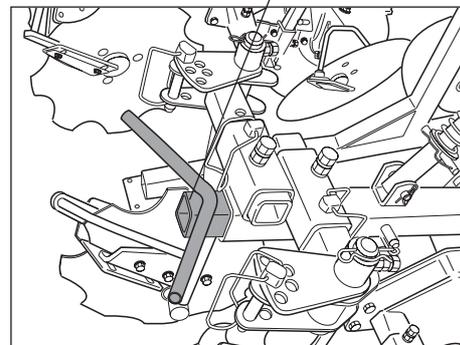
安全ピン



- ・最後に使用したスライドハンドルをユニットフレームに収納し、ピンで固定します。



スライドフレーム



保守・点検

機械を長持ちさせるためには、普段の保守、点検が大切です。

▲ 注意

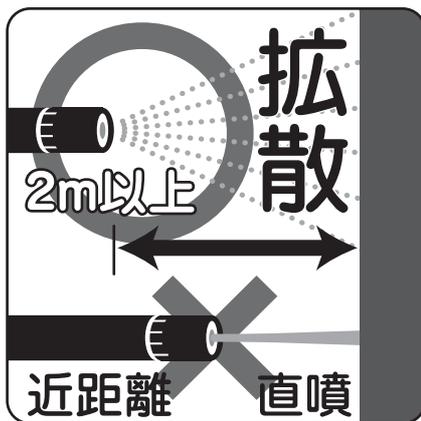
トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、油圧ロックを行い、かつ、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。

1. 作業終了後は、きれいに水洗いを行い、水分を拭き取っておいてください。

▲ 注意 (高圧洗車機)

機械を損傷させないように洗車ノズルは拡散にし、2 m以上離して洗車してください。もし、直射や不適切に近距離から洗車すると機械の破損・損傷・故障や事故の原因になります。

- 例
- 1) シール・ラベルの剥がれ
 - 2) 樹脂類 (カバーなど) の破損
 - 3) 塗装・メッキ皮膜の剥がれ



2. グリスアップ

下記の基準で実施してください。

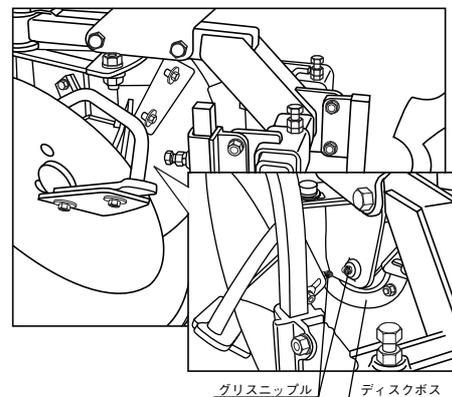
点検項目	種類	注油時間
ヘイコウリンク	グリス	50時間毎
ディスクボス	グリス	50時間毎

グリスは、新日本石油エピノック 2 番又は同等品 (リチウムグリスを使用してください。)

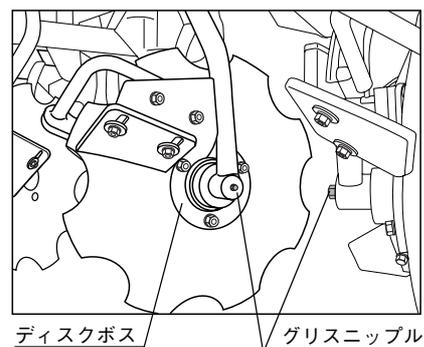
3. ディスクボスのグリスアップの仕方

ディスクの裏側のグリスニップルからグリスアップしてください。グリスはオイルシールのリップからきれいなグリスが出てくるまで行ってください。(グリス量：20 ml)

○ ヒラガタディスク (10ヶ所)

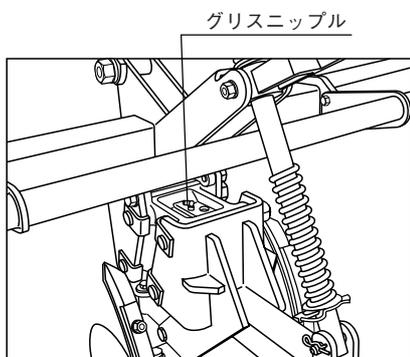


○ ハナガタディスク (10ヶ所)



4. ハイコウリンクのグリスアップの仕方

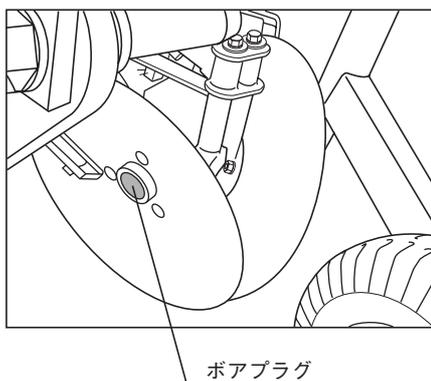
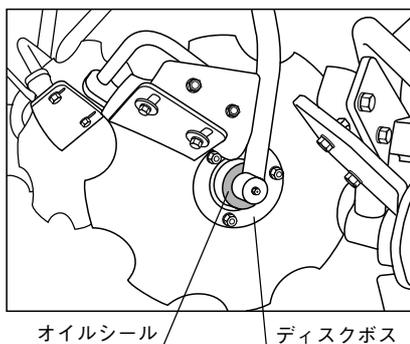
上下のハイコウリンクのグリスニップルからグリスアップしてください。グリスはハイコウリンクの端からグリスが出てくるまで行ってください。(10ヶ所)



5. オイルシールの組替え

整備などの目的でディスクボスを分解される場合は、必ず新しいオイルシール、ボアプラグと交換してください。そのまま使用するとディスクボス内部への水、土の浸入につながります。

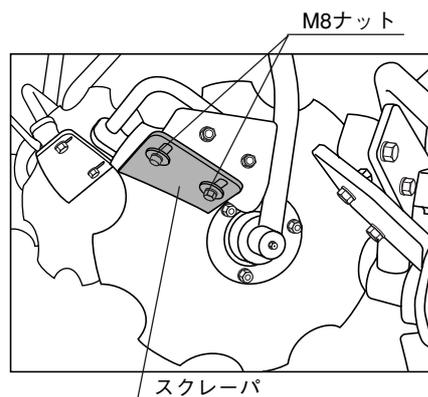
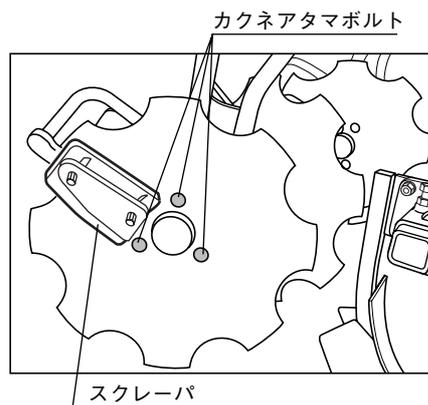
オイルシール組付時、向きに注意してください。反対向きですとオイルシールが破損します。



6. ディスクの交換

ディスクボス裏側のM8ナット3ヶ所を緩め、カクネマルアタマボルト3本とディスクを外します。

新しいディスクを取り付ける際は、必ずカクネマルアタマボルトをディスク側から差し込みナットを締めてください。



ディスク交換後、スクレーパとのスキマを再調整してください。

取扱上の注意

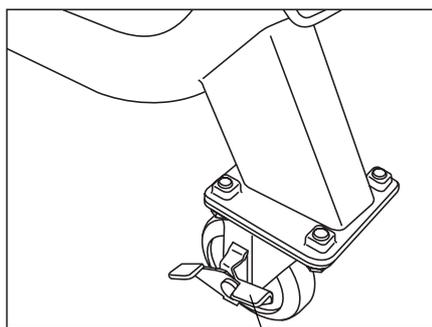
ボルトはしっかりと締め付けてください。
新しく交換した場合は、緩みやすいので作業1時間で増締めをしてください。

▲ 注意

1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりしたところで行ってください。
2. トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、油圧ロックを行いつつ、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。
3. ボルト、ナットを緩めたり、締め付ける場合は、12のメガネレンチが確実に入った状態で作業してください。
4. ボルトを締めるときは、ディスクで手を切らないよう、作業は丈夫な手袋を着用して行ってください。

保管・格納

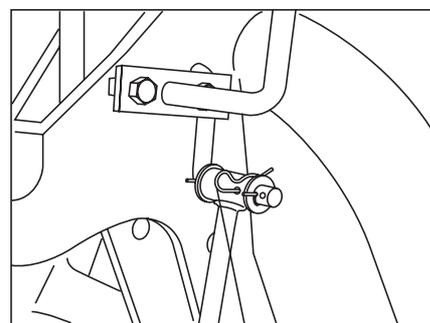
1. 作業機は、平坦な地盤のしっかりした屋根のある場所に保管し、キャストのブレーキをロックしてください。
2. キャスタスタンドで作業機を移動する際は、平坦な広い場所で、周囲に人がいないことを確認し、足元に注意して行なってください。



スタンドキャストロック

3. キャスタ及びキャストスタンドが損傷したまま使用すると作業機が転倒する恐れがあり危険です。損傷している場合は、ただちに修理、交換を行なってください。

4. キャスタスタンドは、圃場内での使用や、圃場内への放置はしないでください。泥の浸入により回転しにくくなることがあります。又、泥が侵入して回転しにくくなった場合は、よく洗浄してグリスを塗布してください。
5. オートヒッチを作業機に取り付けて保管する場合は、必ず落下防止のRピンを差し込んでおいてください。



3L, 4L

Rピン

6. 格納後はみだりに子供などが触れないような処置をしてください。

主要諸元

型 式	DC501	DC501T-0L
駆 動 方 式	トラクタ牽引方式	
機 体 寸 法 ()内は スタンド付	全 長 (mm)	1328 (1620)
	全 幅 (mm)	2680~3967
	全 高 (mm)	1311 (1170)
機 体 質 量 (kg)	477 (502)	468 (493)
適 応 ト ラ ク タ (KW{PS})	35.3~72.1 {48~98}	
装 着 装 置 の 種 類	直装	日農工標準オートヒッチL
標 準 耕 幅 (cm)	25 (うね幅60cm時) ~44 (うね幅85cm時)	
標 準 耕 深 (cm)	3~5	
前ディスク角度調節範囲 (°)	片側 15~25	
後ディスク角度調節範囲 (°)	片側 5~35 (標準20)	
デ イ ス ク	デ イ ス ク 枚 数	1ユニット当たり4枚 計20枚
	デ イ ス ク 形 状	前列：平形、 後列：花形
	デ イ ス ク 外 径 (cm)	35
適 応 畝 幅 (cm)	60~85	
耕 深 調 節 機 構	前ゲージ輪	
標 準 作 業 速 度 (km/h)	4~6 (標準作業速度 4)	
作 業 能 率 (分/10a)	5 (条間85時) ~7 (条間60時) (作業速度 4km/h時)	

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

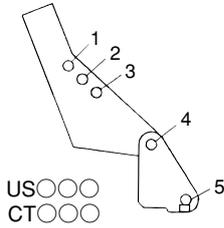
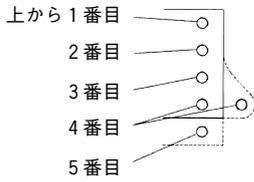
トラクタ別装着表

(標準3点リンク直装)

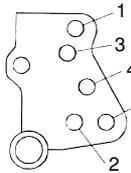
※この表はあくまでマッチング表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内で御使用ください。
また、本作業機トラクタ別装着表にお客様のトラクタ型式が載っていない場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		備考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	
MZ 50・55・60・65・70・75 MZ 705・755	4	イ	へ	575	B	G	ロワリンクピン内向き
SM Z 76・85・95 SM Z805・875・955	4	イ	へ	625	B	G	
M1-85 M 85D・95D M 90・M90A MD 77・87	2	ロ	L=615	700	A	G	
GM 56・60・64・73	4	イ	へ	610	A	G	
GM 75・82・90	5	ロ	ニ	640	A	G	
M1 55・65 M1-60S	3	イ	L=540	650	A	G	
M1-75	3	ロ	L=615	675	A	G	
M 6970・7970・9570 M 6950・7950・9550	2	イ	L=600	645	A	G	
M 7530・8030	3	イ	L=610	675	A	G	
M 8230	3	ロ	ニ	635	A	G	
M 6830	4	イ	L=540	600	A	G	
US 551・601, EG 53・58 EF 655・660, EG 655・660	5	イ	へ	665	C	G	
EG 65・665 EF 665	5	イ	へ	680	C	G	
EG 76・83	4	ロ	へ	620	A	G	
EG 765・775・782	4	ロ	へ	620	A	G	
F 60・70	2	ロ	L=530	620	A	G	
F 80	2	ロ	L=600	625	A	G	
PF 82・92	3	ロ	へ	645	C	G	
AF 520・620・720	2	イ	L=570	620	A	G	
AF 655・660	4	イ	へ	590	A	G	
AF 655A・660A	4	イ	へ	630	A	G	
AF 665	4	イ	へ	630	A	G	

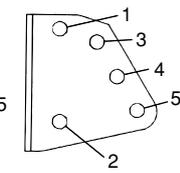
トップリンク取付穴



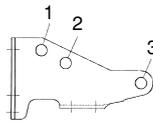
ドラフト仕様



ドラフトなし仕様

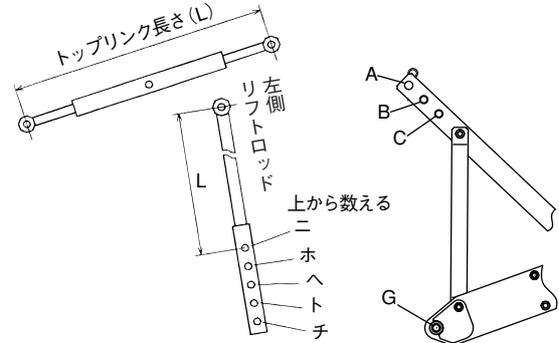


KL36~50

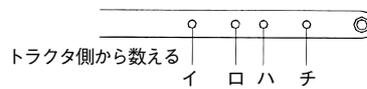


Bb260

トップリンク・リフトロッド調整



ロアーリンク取付穴



トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		備考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	
EF 880・890・895 AF 865・875・880・890	3	イ	ニ	600	A	G	
TJ 55	3	イ	ホ	575	A	G	
TJ 65・75	3	イ	ホ	530	A	G	
TJ 85	3	イ	ホ	555	A	G	
TJV 58・63・68・75	2	ロ	ホ	555	A	G	
TJV 75・85・95(ZLWX仕様)	3	ロ	ホ	575	A	G	
TJV 75・85・95(GLWD仕様)	4	ロ	L=550	665	A	G	・クイックヒッチタイプのトップリンク ・ロワリンクの水平制御なし
TJV 75・85・95(GLWX仕様)	4	ロ	ホ	655	A	G	・クイックヒッチタイプのトップリンク ・ロワリンクの水平制御付
ATK 56	2	イ	ニ	605	C	G	
TG 553 TGS 55	3	イ	ニ L=490	600 (585)	A	G	()はドラフト仕様 上昇規制要
T 625・725・825H	2	ロ	ニ L=675	645	A	G	キャビン仕様は上昇規制要
T 935	3	ロ	L=720	645	A	G	
T 72・82 T 7020・7010	2	ロ	ニ L=715	690	B	G	
T 7020A	2	ロ	ニ L=635	685	B	G	
T 8020・8010	2	ロ	ホ L=795	700	A	G	
TR 55・63(メカ) TR 633(メカ)	4	イ	ニ	620	A	G	
T 5085・5095	4	イ	L=690	635	A	G	
T 883	3	ロ	L=680	685	A	G	上昇規制要
MT 501・551・601	4	イ	へ	590	A	G	
MT 651・751・801・901	3	イ	ニ	600	A	G	
MT 520・620・720	2	イ	L=570	620	A	G	
GV 500・550・600・650 GV 700・750	4	イ	へ	575	B	G	ロワリンクピン内向き
GV 760・850	4	イ	へ	625	B	G	
GV 56・64・73	4	イ	へ	610	A	G	
GV 75・82	5	ロ	ニ	640	A	G	
MF 5435・5445	4	イ	L=690	635	A	G	
MF 2430・2435・2440	3	イ	L=515	675	A	G	
MF 362・365・265	3	イ	L=620	745	A	G	
MF 375・275・285・390 MF 290・382	3	ハ	L=710	765	A	G	
MF 3050・3060・3065・3070	3	イ	L=700	685	A	G	
MF 6110・6120・6130・6140	3	ロ	L=680	685	A	G	
MF 6150	3	ロ	L=720	645	A	G	
F 5110・5610・6410・6610 F 6710	3	ロ	L=805	745	A	G	
F 6810・7610・7710	2	ロ	L=805	705	A	G	
TL 70・80・90・90A F 4635・4835・5635 F 6635・7635 F 682・683・684	2	イ	L=600	665	A	G	上昇規制要
T 4030・4040	2	ロ	L=670	660	A	G	
T 4030・4040 MXC 80・90	2	ロ	L=670	660	A	G	
TN 55・65・75 TN 60S-A・70S-A・75S-A TN 85S-A	2	イ	L=600	645	A	G	

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		備考
	トップリンク取付穴	ローアールリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ローアールリンク取付穴	
F 4635・4835・5635 TL 70・80・90 TL 90A	2	イ	L=600	660	A	G	
JD 5325・5425・5525 JD 5320・5420 JD 5310・5410 JD 5300・5400	3	イ	L=530	630	C	G	
JD 6100・6200・6300 JD 6600・6610・6620 JD 6110・6210 JD 6120・6220	3	イ	L=770	620	A	G	
JD 1550・1750・1850 トップリンク取付穴1個	1	イ	L=665	670	A	G	
JD 1550・1750・1850 トップリンク取付穴3個	3	イ	L=665	680	A	G	
JD 2250・2650・2850 JD 1040・1140・1640・2140 JD 1030・1130・1630・2030 JD 2130 トップリンク取付穴1個	1	イ	L=645	660	A	G	
JD 2250・2650・2850 JD 1040・1140・1640・2140 JD 1030・1130・1630・2030 JD 2130 トップリンク取付穴3個	3	イ	L=645	670	A	G	
JD 2650・2850 トップリンク取付穴3個 クイックヒッチタイプ	3	イ	L=645	675	A	G	
CX 75 CX 60・70・80	2	イ	L=720	685	A	G	

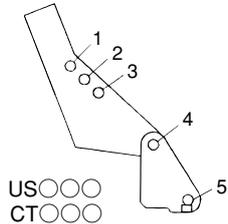
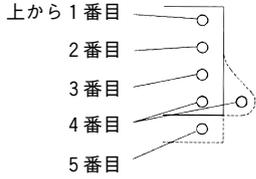
トラクタ別装着表

(日農工標準オートヒッチ T-3L, 4L)

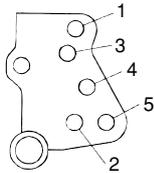
※この表はあくまでマッチング表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内で御使用ください。
また、本作業機トラクタ別装着表にお客様のトラクタ型式が載っていない場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		備考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	
MZ 50・55・60・65・70・75 MZ 705・755	4	イ	へ	570	B	G	
SM Z 76・85・95 SM Z805・875・955	4	イ	へ	610	B	G	
M1-85 M 85D・95D M 90・M90A MD 77・87	2	ロ	L=615	700	A	G	
GM 56・60・64・73	4	イ	へ	610	A	G	
GM 75・82・90	5	ロ	ニ	640	A	G	
M1 55・65 M1-60S	3	イ	L=540	650	A	G	
M1-75	3	ロ	L=615	675	A	G	
M 6970・7970・9570 M 6950・7950・9550	2	イ	L=600	645	A	G	
M 7530・8030	3	イ	L=610	675	A	G	
M 8230	3	ロ	ニ	635	A	G	
M 6830	4	イ	L=540	600	A	G	
US 551・601, EG 53・58 EF 655・660, EG 655・660	5	イ	へ	645	C	G	
EG 65・665 EF 665	5	イ	へ	660	C	G	
EG 76・83	4	ロ	へ	620	A	G	
EG 765・775・782	4	ロ	へ	620	A	G	
F 60・70	2	ロ	L=530	620	A	G	
F 80	2	ロ	L=600	625	A	G	
PF 82・92	3	ロ	へ	620	C	G	
AF 520・620・720	2	イ	L=570	620	A	G	
AF 655・660	4	イ	へ	590	A	G	
AF 655A・660A	4	イ	へ	630	A	G	
AF 665	4	イ	へ	630	A	G	

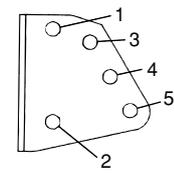
トップリンク取付穴



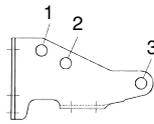
ドラフト仕様



ドラフトなし仕様

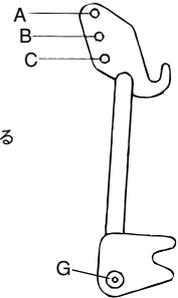
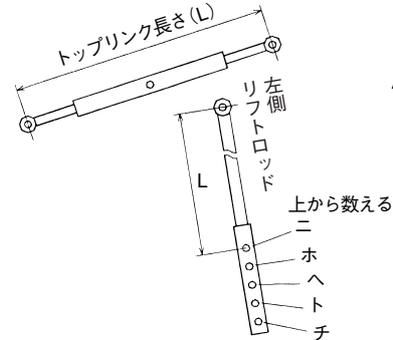


KL36~50

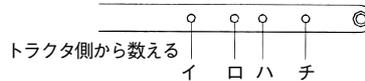


Bb260

トップリンク・リフトロッド調整



ロアーリンク取付穴



トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		備考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	
EF 880・890・895 AF 865・875・880・890	3	イ	ニ	600	A	G	
TJ 55	3	イ	ホ	575	A	G	
TJ 65・75	3	イ	ホ	530	A	G	
TJ 85	3	イ	ホ	555	A	G	
TJV 58・63・68・75	2	ロ	ホ	555	A	G	
TJV 75・85・95(ZLWX仕様)	3	ロ	ホ	575	A	G	
TJV 75・85・95(GLWD仕様)	4	ロ	L=550	665	A	G	・クイックヒッチタイプのトップリンク ・ロワリンクの水平制御なし
TJV 75・85・95(GLWX仕様)	4	ロ	ホ	655	A	G	・クイックヒッチタイプのトップリンク ・ロワリンクの水平制御付
ATK 56	2	イ	ニ	565	C	G	
TG 553 TGS 55	3	イ	ニ L=490	600 (585)	A	G	()はドラフト仕様 上昇規制要
T 625・725・825H	2	ロ	ニ L=675	645	A	G	キャビン仕様は上昇規制要
T 935	3	ロ	L=720	645	A	G	
T 72・82 T 7020・7010	2	ロ	ニ L=715	680	B	G	
T 7020A	2	ロ	ニ L=635	675	B	G	
T 8020・8010	2	ロ	ホ L=795	700	A	G	
TR 55・63(メカ) TR 633(メカ)	4	イ	ニ	620	A	G	
T 5085・5095	4	イ	L=690	635	A	G	
T 883	3	ロ	L=680	685	A	G	上昇規制要
MT 501・551・601	4	イ	へ	590	A	G	
MT 651・751・801・901	3	イ	ニ	600	A	G	
MT 520・620・720	2	イ	L=570	620	A	G	
GV 500・550・600・650 GV 700・750	4	イ	へ	570	B	G	
GV 760・850	4	イ	へ	610	B	G	
GV 56・64・73	4	イ	へ	610	A	G	
GV 75・82	5	ロ	ニ	640	A	G	
MF 5435・5445	4	イ	L=690	635	A	G	
MF 2430・2435・2440	3	イ	L=515	675	A	G	
MF 362・365・265	3	イ	L=620	745	A	G	
MF 375・275・285・390 MF 290・382	3	ハ	L=710	765	A	G	
MF 3050・3060・3065・3070	3	イ	L=700	685	A	G	
MF 6110・6120・6130・6140	3	ロ	L=680	685	A	G	
MF 6150	3	ロ	L=720	645	A	G	
F 5110・5610・6410・6610 F 6710	3	ロ	L=805	745	A	G	
F 6810・7610・7710	2	ロ	L=805	705	A	G	
TL 70・80・90・90A F 4635・4835・5635 F 6635・7635 F 682・683・684	2	イ	L=600	665	A	G	上昇規制要
T 4030・4040	2	ロ	L=670	660	A	G	
T 4030・4040 MXC 80・90	2	ロ	L=670	660	A	G	
TN 55・65・75 TN 60S-A・70S-A・75S-A TN 85S-A	2	イ	L=600	645	A	G	

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		備考
	トップリンク取付穴	ローアリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ローアリンク取付穴	
F 4635・4835・5635 TL 70・80・90 TL 90A	2	イ	L=600	660	A	G	
JD 5325・5425・5525 JD 5320・5420 JD 5310・5410 JD 5300・5400	3	イ	L=530	610	C	G	
JD 6100・6200・6300 JD 6600・6610・6620 JD 6110・6210 JD 6120・6220	3	イ	L=770	620	A	G	
JD 1550・1750・1850 トップリンク取付穴1個	1	イ	L=665	670	A	G	
JD 1550・1750・1850 トップリンク取付穴3個	3	イ	L=665	680	A	G	
JD 2250・2650・2850 JD 1040・1140・1640・2140 JD 1030・1130・1630・2030 JD 2130 トップリンク取付穴1個	1	イ	L=645	660	A	G	
JD 2250・2650・2850 JD 1040・1140・1640・2140 JD 1030・1130・1630・2030 JD 2130 トップリンク取付穴3個	3	イ	L=645	670	A	G	
JD 2650・2850 トップリンク取付穴3個 クイックヒッチタイプ	3	イ	L=645	675	A	G	
CX 75 CX 60・70・80	2	イ	L=720	685	A	G	

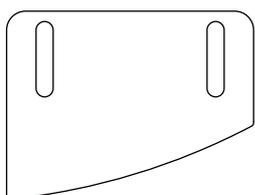
点検整備一覧表

頁を入れてください。

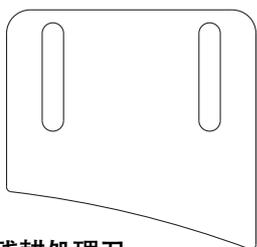
時 間	項 目	参照ページ
新品 使用始め		
新品 1時間使用後	全部のボルト、ナットを増し締め	
毎日の作業前	チゼル・ディスクの取付ボルトの増し締め	
毎日の作業後	①洗浄後、水分拭き取り	
	②ボルト、ナット、ピン類のゆるみ、脱落の点検	
	③ディスク・チゼル・スクレーパの摩耗、折損の点検	
	④チゼルシャーボルトの折損の点検	
50時間毎又は シーズン終了後	①ディスクボスのオイルシール、ボアプラグの異常点検	
	②ディスクボス・平行リンクのグリス注油	
	③安全ラベルの剥がれの点検	
	④無塗装部へのサビ止め	
	⑤消耗部品の早期交換	

消耗部品

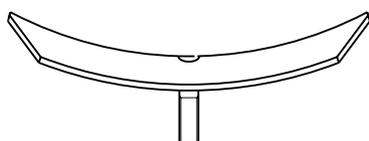
1. スクレーパウチ



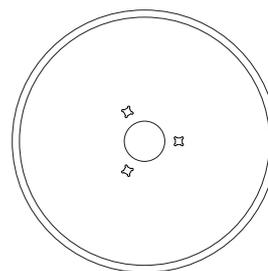
2. スクレーパント



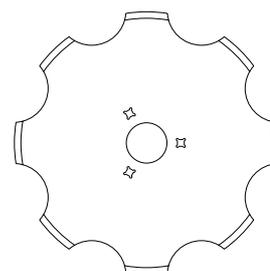
3. チゼル・残耕処理刃



4. ヒラガタディスク



5. ハナガタディスク



6. シャーボルト 7T M8X30 P1.25 コガタナット (Sワッシャ付) M8

異常診断一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合、そのままにしておきますと故障、事故の原因となります。

再使用せず、直ちに対策を行ってください。

症 状	本体各部	原 因	対 策
異 音	ディスクボス	過負荷によるベアリングの損傷	ベアリング交換
	ハイコウリンク	グリス切れによる焼き付き	グリス注入
ディスクの 回転不良	ディスクボス	グリス切れによるベアリング損傷	グリス注入・ベアリング交換
		過負荷によるベアリングの損傷	ベアリング交換
	スクレーパ	スクレーパをディスクに押し付けすぎている	スクレーパ調整
	チゼル	シャーボルトが飛んでディスクと干渉している	シャーボルトの交換
ユニット フレームの 動きが硬い	ハイコウリンク	グリス切れによる焼き付き	グリス注入
ディスクボス 内部の水、 土の浸入	ディスクボス	オイルシール、ボアプラグの劣化、 損傷	オイルシール、ボアプラグ、 ベアリングの交換 グリス注入
土付着	ディスク	スクレーパの摩耗	スクレーパ調整、交換
耕深が浅い	チゼル	チゼル摩耗	チゼル交換
		チゼル位置を調整していない	うね幅に合わせたチゼル位置 の調整
	作業姿勢	作業機が前傾	トップリンク調整
	ディスク	ディスクの摩耗	ディスクの交換
うねが小さい	ホイールゲージ	ホイールゲージの耕深設定が浅い	ホイールゲージの調整
	ヒラガタディスク	ヒラガタディスク角度が小さい	ヒラガタディスク角度の調整
	ハナガタディスク	ハナガタディスク角度が小さい	ハナガタディスク角度の調整
	車速	車速が遅い	車速を上げる
うねが大き すぎる	ホイールゲージ	ホイールゲージの耕深設定が深い	ホイールゲージの調整
	ヒラガタディスク	ヒラガタディスク角度が大きい	ヒラガタディスク角度の調整
	ハナガタディスク	ハナガタディスク角度が大きい	ハナガタディスク角度の調整
	車速	車速が速い	車速を下げる
残耕	ヒラガタディスク	ヒラガタディスク角度が小さい	ヒラガタディスク角度の調整
	ハナガタディスク	ハナガタディスク角度が小さい	ハナガタディスク角度の調整
	残耕処理刀	残耕処理刀の摩耗	残耕処理刀の交換
		残耕処理刀のウイングの破損	ウイングの交換

用語解説

アタッチメント

作業機に後付けする部品

オートヒッチ

トラクタに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

クリーブ

超低速の作業速度

耕深

耕うんする深さ

3点リンク

トラクタに作業機を装着するための3点で支持を行うリンク

チェックチェン

トラクタに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェン

トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業機の上部を吊り下げているリンク

揚力

トラクタが作業機を上昇させるための力

ジョイント

トラクタの動力を作業機へ伝達するための軸

リフトロッド

トラクタが作業機を上げるためロアーリンクと連結しているアーム

リリーフ弁

油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁

ロアーリンク

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機の下部を吊り下げているリンクで左右1本ずつある

ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

メインフレーム

3連のユニットフレームがつく、角パイプのフレーム

CPブラケット

左右のユニットフレームを取付けている部品で条間調整はこの部品をスライドして行う

ユニットフレーム

ヘイコウリンクを介して上下に動くフレームで1台につき3連(2連)ある

ヘイコウリンク

メインフレームとユニットフレームを取り付ける上下に回転する部品

ホイルゲージ

CPブラケットにつく車輪で耕深を調節する

ヒラガタディスク

中耕ディスクの前列につく円盤

ハナガタディスク

中耕ディスクの後列につく切欠きのある円盤

ディスクボス

ディスクを取り付ける部品で中にベアリングが組み込まれている

スクレーパ

ディスクに付着した土を掻き落とす部品

チゼル

ヒラガタディスクとハナガタディスクの間にある土を膨軟にするための爪

シャーボルト

チゼルに石などが引っかかった際に、切れることで本体の破損を防ぐボルト

ザンコウショリトウ

ヒラガタディスクの残耕を削るための爪で、ウイングがついている

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

KOBASHI

小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684

☎ (086) 298-3112

インターネットでも弊社の情報をご覧いただけます。

<http://www.kobashikogyo.com>

■北海道営業所	〒071-1248	北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番	☎ (0166) 49-0070
■東北営業所	〒024-0004	岩手県北上市村崎野13地割35-1	☎ (0197) 71-1160
■関東営業所	〒321-3325	栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1	☎ (028) 687-1600
■新潟営業所	〒942-0041	新潟県上越市安江477-1	☎ (025) 546-7747
■岡山営業所	〒701-0165	岡山市北区大内田727	☎ (086) 250-1833
■九州営業所	〒861-2236	熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F	☎ (096) 286-0202